

* 特集

学術書棚のつくりかた

インタビュ―

差異と類似の本棚

鹿島茂・明治大学教授に訊く

I

本との出会い

自然科学書棚からの発信 野澤佳代

IO

「つながり」からの人文書棚

鈴木慎二

I4

地方書店の棚、むかしといま

家島聖司

I8

書物による大学

三木拓

22

* 連載

初版本、ナンセンスなフェティシズム

藤井純道著『性愛ハンドブック』酒井道夫

表 2

大学出版部ニュース

25

大学と社会を結ぶ
知のネットワーク

大学出版



一般社団法人
大学出版部協会

THE
ASSOCIATION
OF
JAPANESE
UNIVERSITY
PRESSES

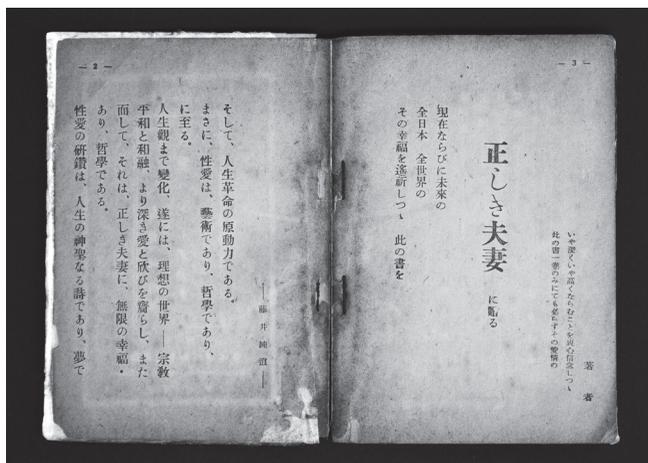
NO. 99
2014. 7
*夏

初版本、ナンセンスなフェティシズム

藤井純道著

『性愛ハンドブック』

酒井道夫（二代目酒井九ホ堂）



「左縦書き」による巻頭の辞。この体裁が「最も便利」とする理由は、本書の親本『性愛研鑽法と人生の幸福』に詳らかのようだ。巻末の広告によれば、本書を含む「コバルト文庫」（他4冊が既刊）やその他の書籍もテーマは一貫しており、全て藤井の著作

古書のY書店はほぼ六〇年前に我が町に開店したのだが、昨深秋ひっそりと店を閉めた。ここでは古書も購ったが、店の奥から店主が世間に向けて毒を吐く長口舌に付き合わされた記憶がより鮮明だ。その間には彼から貰っちゃった本も色々あるが、最後に貰ったのがこの本（日本コバルト文化協会、一九四九）。割合に最近のことだ。

Y書店開店当初、悶々たる低迷の日々を送る高校生だった私は、店頭に積まれたソノ方面の雑誌類なんかを盗み見るのが情けないながら慰みの一つであったが、それから十数年の後、短大教員になって自分の学生を店に差し向け、資料涉猟に力を貸していただくことになるとは、人生の紆余曲折つてのも不思議なものだ。近頃じゃあこの店も、押しも押されぬ格調を帯びた古書店になって、ソノ方面のものなど全く見当たらなくなっていた……。

ある時、神戸出身のお嬢チャマ学生を差し向けたら「せんせー、この本もオマケに呉れました」と差し出したのが、例の店頭物件類似の雑誌。店主は困ったオヤジでもあったのだ。このお嬢チャマの方は卒業と同時に新進建築家と人も羨む家庭を持つて人生行路を船出したと思つた途端、先方の両親を相次いで彼岸に送り出したついでに本人まで逝っちゃつた。人生は不条理。今回も何で今更こんな本を呉れるのだと、いぶかしい気分です手に取つて見ると「なんじゃ、こりやー」。「だからやるつて言うんだよ。持つてきなヨ」。自序に「本書には私の着想による『左縦書き（左開き）』を採用した」とある。著者の自装自刊本。奥付で、印刷・製本を秀美堂という会社が請けているのがわかるが、その代表者以下、製本、印刷、校正、整版、割付の各担当者が名を連ねている。簡易製本ながら、本文を藍色で刷り、表紙の三方にチリをせり出し、小口を緑色に染めた形跡もある。ただ、時代を反映して用紙の劣化変色が激しく、今となつては当時の凝り方も良くは伝わらない。でも凄気合いなのだ。とんだ頂き物だった。

差異と類似の本棚——鹿島茂・明治大学教授に訊く

【解説】鹿島茂先生は、一九四九年横浜市生まれ。東京大学大学院人文科学研究科博士課程修了。共立女子大学文芸学部教授を経て、明治大学国際日本学部教授。専攻は十九世紀のフランス文化。九一年『馬車が買いたい!』（白水社）で第十三回サントリー学芸賞、九六年『子供より古書が大事と思いたい』（青土社）で第十二回講談社エッセイ賞、九九年『職業別パリ風俗』（白水社）で第五十一回読売文学賞、二〇〇四年『成功する読書日記』

増殖する本

——かつては勤務先も、仕事場もお住まいも、本の街・神田神保町でした。

現在の職場は中野なのですが、神保町にはいまでも月に一度二度は行きます。神保町はどこに何の本があるかほぼ

（文藝春秋）で第二回毎日書評賞を受賞。文学研究、エッセイ、翻訳など、幅広い分野で読者を魅了する。著書、訳書多数。近著に『モンフォークンの鼠』（文藝春秋）。古書収集家、蔵書家として知られ、さらには書評家としても活躍されている、読書家、愛書家の鹿島先生に、ご自身の本棚、書店の棚づくりについて、そして分類の方法についてお話をうかがった。

（聞き手・玉川大学出版部・森貴志）

頭に入っているから、僕にとつては便利な書庫のようなものなんです。

たとえば、連載している評論で、永井荷風が成島流北について書いているエッセイが突然必要になったのだけど、日曜の午後六時だから図書館は全部閉まっている。

そんなとき、「そうだ、あの古書店の店頭」『荷風全集』があったはず」と思い出して駆けつけたところ、全二十六

巻で五〇〇〇円。必要なのはたった一カ所だけだから、高いといえば高い。しかし、『荷風全集』全巻だから、安いといえばこんな安いものはない。というわけで全巻買ってきました。

——海外で十九世紀の古書もずいぶんお買いになつていますし、仕事でも本を読まれる。また、神保町でそんな調子で本を買っていくと、置き場所の問題があると思いません。本の収納はどうされていますか。本棚にはどう並べているのでしょうか。

置き場所は、本を集める人にとつて永遠に解決されない最大の悩みでしょうね。僕も、どうやって安くて広い保管場所を探すか、いつも広さと追っかけっこです。しかし、地価が安いからといって郊外に巨大な書庫をつくると、そこに行かなくなってしまうから困るんですね。ほんとうはすべての本が自分の仕事場にあるのが最も望ましいですね。僕の場合、事務所や研究室のほかに、スタジオなども含めて何カ所かに分散して本を置いていますので、非常に不便です。もともと整理のいい人間じゃないし、第一、量が整理できる段階を超えています。しかも、より広いところを求めて何回か引っ越しをしたので、何がどこに置いてあるかわからなくなっている。自分なりに整理し直そうと思つてもそんな時間はないんです。

だから、本の並べかたは完全なアナキーです。司書みたいな人がいて整理してもらえればいいんですけど。そんなお金はないから、未整理のままです。

大きさや高さは揃えて並べていますが、ジャンルを細かく考えて入れているわけではないですね。引用をよくする本はあちこちに何冊か置いています。よく使う本は三冊くらい買つておけということです。辞書も同じで、「新明解」は三、四冊あるかな。一冊しかない、見つからなくなつちやうことがあるから。

——美しく並べられていますが、ジャンルで分類されているわけではないですね。

ジャンル別に並べると、探すのには好都合でも、収納にとつては効率的でないという矛盾があります。僕にとつていちばんの問題はできる限り多くの本を収納できるか否かですから、必要条件是壁面積が大きいということに尽きる。本来はジャンル分けしたほう探しやすいと思いますし、図書館みたいに日本十進分類法に従うとか、著者別に並べるのもいいと思います。しかし、ジャンルを考えて本棚を整理し始めると、あっちにもこっちにも同じ本を入れたくなる。クロス・レファレンスを現物ですというのが理想ですね。

この意味で、岩波文庫はすばらしい。小さなサイズに必



要な古典が全部詰まっているというのはすごいし、面積もとらないから、何冊も同じものを揃えておける。背の赤、白、青などの色で分類もされていますから、いくら整理をしない人間でも、背の色ぐらいで多少は統一できます。とはいえ、本の量が膨大なので、必要なものが結局見つからず、近くの大学図書館を利用したり、文庫本をまた買ったりにすることも多いですけど。

選ぶ、読む、書く

——先生は、「毎日新聞」や「週刊文春」などで書評を書かれています。また書物に関わる本も出されていて、古書店だけでなく新刊書店に行く機会も多いと思います。

先生にとって「よい書店」「充実した書店」の基準とは何でしょうか。

先ほどの話の続きになりますが、いい本屋の見分けかたはかんだんで、岩波文庫の棚がたくさんつくってあるところ（笑）。岩波文庫は買い切りだから、そのリスクをテイクする姿勢がないところはダメです。最近文庫の価格も高くなってきましたが、それでも岩波文庫やちくま文庫、講談社文芸文庫などはすばらしいと思いますよ。電子書籍はたしかに場所をとらないという利点はあるけれど、僕は使い勝手からいって文庫派です。

個人的にはワンフロアですべての棚を見渡せる書店が好きなんです。以前は六本木の青山ブックセンターとか、京都に行ったときには駸々堂によく通いました。いまは渋谷の丸善ジュンク堂と東京堂ですね。特に丸善ジュンク堂は量が充実していますね。

ただ、僕としては、もうちょっと専門的に特化している書店があったらいいと思います。「わかっている人」が責任をもって棚をつくっている本屋があるといいな。いっそ、「うちはインテリア専門です。エンターテイメント系やハウトゥー本はいっさい扱いません」という店があってもいい。その分野に詳しい人間が売るのがいちばんいい。リスクをとらないとリターンはないんです。リスクをとる勇気があるかないかで、自ずとリターンも決まってくる。

それから、東京堂はやっぱいいと思います。僕は書評で取り上げる本は完全に自分の意思で選んでいます。書評をする本を選ぶには東京堂がいちばんいい。

——自分で選んだ本で書評を書かれるのですね。

そうですね。送られてくる本ではなくて、原則的には自分で買いにいきます。書評は締め切りが決まっていますから、いくら厚い本でもその日のうちに全部読む。もし締め切りがなかったら、僕は怠け者なので、何にも読まないでしょうね。

自分で選んだ本の書評を書くのだから、読みがいのある本じゃないとつまらないでしょう。読むのに二週間かかって原稿料と見あわないということはしょっちゅうあります。しかし、いい本を読んで得るものは、書評で得る原稿料よりはるかに大きいですから。

——東京堂書店では、以前ふくろう店で先生の本棚がありました。また、前店長の佐野衛さんは『書店の棚 本の気配』（亜紀書房）で「やはり研究者の方に棚を作ってもらう、本を選んでもらうのが、一番いいんです。（略）これは売り上げがいいんです」といっています。

僕の棚は基本的に自分で書評した本を入れていました。

読んでおもしろかったというのを絶対的基準にして。佐野さんに連絡して、書評予定の本も並べていました。

インターネット上にもたくさん「書評」がありますし、それはそれでいいんですけど、新聞書評を利用したアナログで読める場所があってもいいと思います。かつて書評は、月曜の朝刊に出ていたでしょ。だから、本好きは月曜日になると喫茶店に出かけて、新聞各紙の書評を読み比べて本を買いにいくという習慣がありました。

いまは時間をかけて本を読み、少ない枚数の制限のなかで苦労して書評を書いても、それで本が実際に動くことはあんまりないんじゃないでしょうか。あらゆる媒体に書評欄があるけれど、誰も読んではいないんじゃないかな。

もうひとつは、前々からいわれているけど、本の流通システムの問題でしょうね。書店では出たばかりの新刊本が中心で、売れなければすぐ返品される。だから、書評を読んで書店に買いに行く奇特な読者がいても、どこにも置いていないことがけっこうある。アマゾンなどで買えるようになったのはいいけれど、そこでも品切れになっていけば書店と同じですから。

——インターネットでの本の検索や、インターネット書店での本の購入はされませんか。

インターネット派ではないけれど、名前がわかっている

本を購入するのにインターネット書店は便利なので、利用しています。図書館のOPAC検索も、この本はこの図書館にあるか一発で探せるのでいいですね。

しかし、インターネットの検索では目次や索引が引けないので、タイトルにキーワードが入っていないければダメでしょう。だから、最近ではネット検索で引つかかるように、やたらにタイトルが長くなる傾向にある。

あいまいなテーマで検索する場合は、やはり開架式の図書館に行き、実際に本を手にとって一冊ずつ検討するしかない。ただ、インターネットのすごいところは、全国の図書館に何冊くらいあるかがわかること。先日、あるキリスト教会の百年史が必要になってOPACで検索したら、全国の三つの大学にしかないことがわかった。ひとつは北海道の大学、もうひとつは紛失中。かろうじて三つめの大学では閲覧できました。つまり、全国の図書館で一冊だけしか見つからなかったわけです。

こういうことはけっこうあります。国会図書館や都立図

書館なども含めてどこかに一冊あればいいのですが、この百年史のようにまったくない資料もある。どこかに一冊でもあればいいので、古い資料は無差別に収集するという図書館があってもいい。

——先生ご自身は、インターネット以外の情報収集はどうされていますか。

古書を探すときには、昔の古本屋のカタログが頼りですね。とにかく、そうした本が存在していたということがわかるから。それと、これはブリコラージュ的な自分用辞書なんです。パリ関係の古書の最後の索引ページだけを全部コピーして一冊のファイルにしています。索引はいい辞書になるんです。

たとえばプレイヤード版「人間喜劇」十二巻の最後に出てくる全索引は、人名事典代わりに使える最高のものです。小説に出てくる人間を、実在した人間とフィクティブな人

統治構造の 憲法論

毛利透

憲法改正の問題点から、末端行政組織のあるべき姿まで、日本の統治構造を憲法の視点から包括的に検討。A5判・本体5700円

民事訴訟法

長谷部由起子

民事訴訟の基本的な考え方から、徐々に高度な論点をたどっていくように、工夫を凝らした新しい教科書。A5判・本体3300円

【世界歴史選書】

貨幣システムの 世界史 増補新版

—(非対称性)をよむ—

黒田明伸

複雑で謎に満ちた貨幣の歴史をグローバルな視野のもとにより多く、多くの議論を呼んだ旧著に補論を加えた新版。四六判・本体2800円

リカード貿易問題 の最終解決

—国際価値論の復権—

塩沢由典

これまでの貿易理論の枠組みを大転換し、現実の貿易政策に対しても大きな意味をもつ画期的研究成果。A5判・本体10,500円

宗教の始原を 求めて

—南部アフリカ聖霊教会の人びと—

吉田憲司

南部アフリカで、聖霊教会への入信が爆発的に増加した。新たな信仰の成立過程を追った知的ルポルタージュ。四六判・本体3100円



岩波書店

東京・千代田・一ツ橋
[定価は表示価格+税]

<http://www.iwanami.co.jp/>



間に分けて載せてありますから。「ゴンクールの日記」の巻末索引も便利ですね。自分なりの「辞書」として使えるものをもっているとかかなり意義のあるものになりますよ。

あとは、時代別の「紳士録」「who's who」の類が役に立ちます。翻訳をやっていると、知らない人の注を書かなきゃいけないことがよくあるのですが、ありきたりの事典には出てないんですね。文学者、政治家は比較的探しやすい。議員になれば「議員目録」もありますから。でも、商業人は名前が残りにくいので、こういうものを探すと特異な辞書が必要になってくるんです。

それは、徒弟修業によるカンの養成みたいなもので、自分の経験を頼りに「もしかすると、ここに出ているかも」とカンを働かせるしかない。インターネットには最近の人の名前はよく出てくるけど、古い人や事件は出ていないことが多い。たった四十年前に有名だった歌手の名前を探そうしても、なかなか出てこないですよ。

本というのは、やはり実際に手にとることが重要だと思います。不思議なもので、そうしているうちに、いい本と悪い本を見分けるカンの働くようになるんです。

質より量

——そうした判断ができるのも、相当な本の量に触れている経験があるからこそなのでしょね。

ある程度の量をこなさないと、質についての批評眼も養えないんですね。

フリーエの情念分類だと、人間の上位情念には陰謀情念と移り気情念と熱狂情念というのがあつたようですが、僕は完全に移り気情念タイプで、同じことをひたすら深くっていうタイプじゃなくて、常に次のテーマを探していないと気がすまない。ただ、新しいテーマを見つけないと、量をこなして質に対するカンが身につかないと、次に移ることは難しいと思います。

それに、どのジャンルについてもいえることですが、絶対的な量をこなしてない批評家というのは信用できないんです。映画でも、たまに映画に行くようなヤツの批評を聞いてもダメでしょう。リテラシーっていうのは、職人の修業と同じで、量を経験することで身につくものです。

——長年大学で教壇に立つておられて、学生に研究論文の指導や資料の収集方法などの指導をされていると思いま

すが、そういったカンの部分をどう教えていらつしやいますか。

いま僕は大学で一年生に「論文の書きかた」という授業をしています。そのほとんどは問題の立てかたの指導です。問いを立てるには方法があつて、すべての出発点は、差異と類似を見つけて、そのよつてくるところを探つていくことです。

ただし、差異や類似を探り当てるには、最低限のカンを働かせないとうまくいきません。しかし、このカンというのは読書経験がものをいう。それがない学生に問いを見つけてさせるにはどうするか？ 自分がこれまで積んできた経験や思考方法のなかで応用の利くものがあるかどうかを考へることでしょね。

類推する力があれば、ひとつのジャンルの理解によつてほかのジャンルの理解もできるようになります。どんなにユニークなアイデアのように見えても、どこかで他のア

今はまだ「戦後」か？
「新たな戦前」か？
憲法9条
集団的自衛権
秘密保護法
領土問題
Q&Aで読む
日本軍事入門

前田哲男・飯島滋明編 これからの日本の平和と安全を考えるための格好の手引書！ 2200円

日本史を学ぶための
(古代の暦)入門

細井浩志著 《暦》を知れば、日本史はもっと面白い。古代の暦の知識が身につく入門書。2900円

中世史料との
対話

村井章介著 3300円
多様な史料にいかにか接近し過去に迫るのか。緻密な解析と斬新な読みによって中世社会と人物を描く。

異類の歌合 室町の機智と学芸
齋藤真麻理著 室町文化を開歩する動物たち…。『異類』はなぜ生みだされたのか？ 3800円

津波災害と
近代日本

北原糸子著 4800円
安政東海・南海地震、明治・昭和三陸津波…。被災から復興までの全体像を追究。復興の道筋を問直す。

好評重版より

武蔵武士団

関 幸彦編 坂東武者の代表。「平家物語」「太平記」から浮かび上がるその全貌に迫る。2500円

長篠合戦と
武田勝頼

平山 優著 2600円
戦術革命の画期とされた合戦の真実。勝頼像を再評価。(敗者の日本史⑨)

南朝の真実

(歴史文化ライブラリー 378)
亀田俊和著 忠臣という幻想
忠臣はいたのか？ 南北朝史を新たな視点で描き出す。1700円

吉川弘文館

〒113-0033・東京文京区本郷7-2-8
電話03-3813-9151／価格は税別
2014年版／出版図書目録／送呈

アイデアが借用されているものなんですよ。

むしろ、差異と類似は、意外なことに自分の専門だけを見ていては気づかないものなんです。だから、自分の専門だけでいくら考えてもダメ。学生にも、関係がないような分野との比較や、歴史のなかでの検証をしてみることが重要だと力説しています。

——差異と類似ですか。

それを見つけるには、分けてみるのが大切です。最初はかんたんなところで、あるアナーキーな状態を単純化するには、とりあえず何かの基準で二つに分けてみます。それができたら、今度は別の基準で二つに分ける。こうすると、四つに分類できる。さらにもう一回分類すると、八つになります。こうして分けることができたなら、今度はそれを別の角度から統合する方法がないかを見てみる。これができれば、応用はいくらでも可能で、「これとあれとは違う。どこが違うのか。なぜか」と問題意識をもてるようになります。

僕が学生に例として示すのは「じゃんけんの必勝法」です。「最初はグー」で始めさせて、百組がどんな手を出すかを全部記録しておく。次は「最初はパー」で試技させる。こうして、どの手をどのタイミングで出すかの結果を統計学的に見ていく。そうすると、アトランダムな人間の意志

のように見えていたものから法則性が出てくるでしょう。

——こんなふうにして、まず分類し、単純化し、その単純のなかでものを考えて、次により複雑なものを解いていく。

——差異と類似によって分類し、大切な部分を拾う。

さらに大きな枠で括り、グループ間の関連づけの過程から、論理を組み立てていく。集めた資料をどれだけオリジナルの枠組みで括ることができるのか。どれだけオリジナルの研究になり、おもしろい論文になるかは、その一点にかかっていると思います。

この分類を膨大な資料でおこなったのが、ヴァルター・ベンヤミンの「パサージュ論」です。十九世紀のパリの風俗に関する資料を分類して引用し、自分のコメントを加えた資料コレクションです。

また、分類するにあたっては、先の研究者のバイアスがかかっている二次資料ではなく、できればオリジナルの一次資料にあたり、オリジナルの関係づけを見つけ出せるのがいちばんいいですね。

パサージュの本屋

——「本」や「書店」に関する本がはやっています。「ブックコーディネーター」など、さまざまなかたちで本に携わる人も増えてきました。インターネット書店に対し

テクニウム

テクノロジーはどこへ向かうのか？
ケリー 技術の進展に徹底する
普遍法則とは。『ワイヤード』創
刊編集長が読み解くテクノロジー
1版(種の起源)。服部桂訳 ¥4500

サルなりに思い出す事など

神経科学者がヒヒと暮らした奇天烈な日々
サボルスキー 「世界一愉快な」
神経科学者が東アフリカでの青年
年研究者時代を顧みる抱腹絶倒
のメモワール。大沢章子訳 ¥3400

写真講義

ギッリ イタリア写真界のマエ
ストロが歴史、実習、表現の可能
性を丁寧に教える濃密な13講。
カラー作品多数。萱野有美訳 ¥5500

良妻賢母主義から外れた人々

湘煙・らいてう・漱石

関口すみ子 良妻賢母は明治期
に作られた新概念だった。規範
と格闘した作家の活躍から国家
と女性の関係を明らかに。¥4200

英語化する世界 世界化する英語

ヒッチングズ 5世紀の誕生以来
デジタル社会の現代に至る生成
変化の歴史を描く、スリリング
な英語進化論。田中京子訳 ¥6200

アメリカ(帝国)の現在

イデオロギーの守護者たち

ハルトウーニアン 民主主義が
テロとの戦いに至る経緯を冷戦
まで遡り、ライシャワー、ファー
ガソン他検証。平野克弥訳 ¥3400

復興するハイチ

震災から、そして貧困から
医師たちの闘いの記録 2010-11
ファーマー 2010年1月。この
破綻国家を築ったのは純粋な自然
災害ではない。国の再建の意
味を問う。岩田健太郎訳 ¥4300

東京文京本郷
5丁目32-21 **みすず書房**
tel. 3814-0131 fax 3818-6435 (税別)
http://www.msyz.jp

て「リアル書店」といういいかたも一般化していますし、先生のおっしゃる「差異と類似」から独自の視点で個人的な棚づくりをしてお店も注目されています。

はつきりいって、その分野にほんとうにくわしい人が選書係を務めていないと、本を選んで売るのは難しいと思います。ぜんぜんわかっていないのだからカッコつけてる本屋も少なくありません。

僕だって、理科系の本を選んで並べてくださいっていわれたら無理ですよ。わからなくて全部並べちゃうしかないですから。何度もいうようですが、本についてもその内容をよくわかっていない人間が、カンを働かせて丁寧な棚をつくりこんでいかなければいけないと思います。

——では、今後、特に学術書はどうやって読者に届けられるべきでしょうか。

僕自身、いまはデパート形式の大きい本屋に行くことが多いのですが、ほんとうはパルコ形式の集合的な新刊書店があると思います。

ひとつの店にあらゆるジャンルの本があるのではなく、フランス文学ならフランス文学だけを扱う専門店、物理の本だけの専門店というふうな、それぞれの専門店が個別に軒を並べる。そのジャンルのことをよく知っている人たちが自分の棚について責任をもつ。選書から、そして売れゆくまで責任をもつ方式が理想です。自ずと個性的な店が並ぶでしょうね。

場所はたとえば、ビルではなくて、十九世紀からあるパリのパサージュのようなところがいい。屋根があつて左右にお店が並ぶアーケード商店街のようなところ。

神保町もそれぞれの店が専門書を扱う個性的な古書街ですが、新刊本の専門店があんまりないでしょう。新刊本の専門店と古書の専門店は並んだパサージュ型ができたら、おもしろいと思います。

■特集・学術書棚のつくりかた

本との出会い——自然科学書棚からの発信

野澤佳代

(八重洲ブックセンター本店)

本との出会いを大切に

「どんな本でもすぐに手に入る書店を」という鹿島建設・鹿島守之助会長（当時）の遺志により、八重洲ブックセンターはその当時日本一の売り場面積の書店として一九七八年にオープンした。創業から三十六年、現在は地下一階から八階までの九フロア、売り場面積一三〇〇坪、在庫約四十数万点・約一〇〇万冊の品揃えを誇る大型書店である。東京駅の目の前に位置し、周辺勤務のビジネスマンのみならず、東京駅を利用される地方からのお客様に高いご支持をいただき、年間二〇〇万人以上のお客様をお迎えしている。これまでは立地からビジネスマンにご利用いただくことが多かったが、東京駅やその周辺地域の再開発により、土日祝日にはご家族連れのお客様にもお越しいただいていい。創業当時は扱っていなかった週刊誌やコミックなども

展開を始め、時代に沿った品揃えを心がけている。

自然科学は理工書の顔

八重洲ブックセンターでは、ビジネス、理工書、人文書、医学……とフロアごとに専門分野の書籍を取り揃えている。理工書は自然科学、農業、建築・土木、コンピュータ、電気、機械工学、化学工学の分類からなり、その中でも自然科学は建築・土木、コンピュータとともに売り場構成比も売り上げも上位の稼ぎ頭のひとつだ。専門家だけでなく一般的な読者にも身近なテーマが多いのが特徴である。たとえば「数学」。学校卒業後すっかり離れてしまっていた数学を、仕事に活用する必要に迫られることもある。昔の教科書はもうない、短時間で記憶を蘇らせたい……。そんなとき「大人向けの中学・高校数学」というコーナーに集めた本が大いに役立つ。



「大人向けの中学・高等数学」コーナー

天文学では一昨年の五月の朝、日食用のメガネを片手に大勢の人が空を見上げ、一〇〇年に一度といわれる天体ショー「金環日食」に沸いた。日食用メガネ付きの書籍が飛ぶように売れ、分野担当者としてこれだけ多くの方の関心があったのかと反響の大きさに驚いた。

東日本大震災後は書籍のみならずDVDなども多く発行され、書店の役割の大きさを感じた。忘れてはならない自然災害として、また改めて「地震大国」であることへの危

機感もあり、関連コーナーは今でも展開している。

ノーベル賞発表の時期にはコーナーを設け、ネット上の予想も参考にしながら選書し、十月を迎える。やはり日本人受賞者がいる年は盛り上がる。

昨年はダイオウイカブームの火付け役「特別展 深海」が上野の国立科学博物館で開催され、同時期にフェアを行った。今でもダイオウイカやリュウグウノツカイがメデイ

アで取り上げられるので、関連書は継続して展開している。フェアの際には深海生物のDVDを放映し、お客様への視覚的なアプローチもしている。今年七月に「SPACE EXPO 宇宙博 2014」が幕張メッセで行われるので、宇宙をテーマにしたフェアを企画中である。展示会やイベントなども書籍展開のチャンスと捉えている。

お客様と書籍とのふれあい

書店業界は様変わりした。パソコンの普及がその要因として挙げられる。パソコンによってお客様からのお問い合わせに対する検索もスムーズに行えるようになった。しかし、ネット販売が始まると「本」は書店に行かずして数日で手に入る流れが生まれ、「本は本屋で買う」という方程式が大きく変化した。我々は「リアル書店」と呼ばれるようになり「ネット書店」と区分けされている。

「リアル書店」の最重要課題は、お店に来ていただくこと。お客様に来ていただいて、そして書棚の前に立っていただくかなければならない。お客様への興味を書店に向ける、そこがポイント。どこでも手に入る書籍を、ネットではなく書店で。そして全国にある書店から八重洲ブックセンターを選んでいただくために何をしていくかを常日頃から考え、様々な企画に結びつけている。

新刊発行時期にあわせて行っているイベント（講演会やサイン会）もそのひとつである。今まで自然科学分野でも



望遠鏡の展示・販売

多くの先生方に講演していただいた。ノーベル物理学賞受賞の益川俊敏先生、二〇一二年フォレストヒーローに選ばれた畠山重篤さん、宇宙飛行士の山崎直子さん、小惑星探査機「はやぶさ」プロジェクトマネージャーの川口淳一郎先生、科学界のインディ・ジョーンズの長沼毅先生、サイエンス作家・竹内薫先生など、各界での第一人者のお話を間近で聞いていただく場をお客様に提供している。新刊の発売記念イベントではあるが、新刊のみならず、過去の著書や、時には先生おすすめの本なども同時に販売している。また、売り場にいらっしやるお子様にも「本屋って楽しい」と思っていただけのような工夫もしている。理系の専門書が並ぶ売り場はお子様にはかなり難しい本が目線を占拠し、飽きてしまう。そこで、お子様向けの科学書の展開を数年前から積極的に始めた。児童書売り場にしかなかったマンガシリーズはもちろん、工作、科学実験キットや図

鑑も陳列している。出版社や業者の方のご厚意で見本もご提供いただいている。書店では初となる望遠鏡の展示・販売も通年行っている。高価なので「触ってはダメ」という親御さんもいらっしやるがその反対で、「どんどん触って、どんどん覗いて！ 壊れても大丈夫だから」とおすすめている。ダチョウの卵の展示も人気がある。お子様にとって何かに触れるのは学びの一步。そのお手伝いができたら、こんな素敵なお手伝いはないと思ってしまう。昨年「Beeプロジェクト」を立ち上げ、屋上で養蜂を開始した。このプロジェクトミツバチを通して、自然、そして生態や都市の緑化に興味をもっていたことがスタートした。グループ会社である鹿島建設の協力のもと採蜜も定期的に行い、イベントなどでお客様へ提供している。

自らがアンテナとなってお客様へ発信できるように心がけ、様々なことを通して八重洲ブックセンターに興味を持っていただき、店頭に来ていただくことを大切にしている。

書評を求めてご来店

毎週日曜日に掲載される各新聞紙の書評は、本好きにはたまらない。多様な書籍を多彩なジャンルの方々が紹介されている。これをチェックするのも我々の仕事のひとつ。

しかしそこで紹介される本は、どの本屋さんでもチェックしている。私の理想は、書評を片手にご来店されたお客

様に、もう一冊別の本も手に取っていただくことだ。「この本を買いにきたけどこちらの本の方が自分にあっている」と思っていただけだったらもう最高。書評で紹介された本だけではなくその隣に並んでいる本も買っていたらいい！

そんなことを常に意識しながら棚をつくっている。ネットではわからない本の重さや手触り、色などに直に触れていただき、お客様の好みにあった本を選んでいただきたい。書籍を展開するときも同様だ。先日、書評で紹介された植物学の第一人者・牧野富太郎さんの書籍『MAKINO』が北隆館から発行されたときも「もう一冊」への取り組みを行った。この刊行にあわせて文庫や新書などをミニコーナーとして棚前の平台に集めた。通常は特設コーナーを別

につくるのだが、植物の書籍を求めていらしたお客様に牧野富太郎さんを今一度知っていただくと同時に、「もう一冊」として手に取っていただくのが狙いだった。こういった取り組みが功を奏し、何年も前からのロングセラーが分野の週間ベストセラーに登場することも多くなっている。

細やかな品揃えを

理工書売り場として近年強化していることは、他店にはない品揃えである。お客様に選んでいただけるアイテムを増やすように心がけている。お客様の最後の砦になるべく、当店ではその一冊を棚に並べるといふ棚づくりを目指している。数年間売り上げがない書籍でも、シリーズものであればできるだけ全巻揃えるようにしているし、関連書籍が少ないものもなるべく持つようにしている。

当店の自然科学分野は生物学、数学、物理学、化学、科学、地球・天文学から成り立っている。そこから細分化される書棚は、日本理学書総目録分類コードを参考に構成している。複雑な棚構成の中からお客様が探しやすいように、プレートを設置したり、検索機を導入したりしている。書籍の電子化も話題になってきているが、まだ多くのお客様

は紙の書籍を求めている。冒頭の「本との出会い」をお手伝いする立場として、お客様の気持ちを大切にしたい。

新刊案内

対談 安丸良夫×菅孝行 A5判180頁・本体800円
近代日本の国家権力と天皇制

今、天皇・天皇制を検証する!!

Ⅰ 近代化の装置としての天皇制への批判的視座
Ⅱ 戦後国家における天皇・天皇制、その延命の根拠

古賀 暹著 菊判・四八〇頁・本体四六〇〇円
北一輝 革命思想として読む

日本ナショナリストとしての既存の北一輝のイメージを覆し、世界聯邦の夢を抱く社会主義者の思想と行動を再定義する。

三部倫子著 A5判130頁・本体三六〇〇円
カムアウトする親子 同性愛と家族の社会学

日本は同性愛に寛容な社会なのか？ 同性愛と家族が交差したとき!!
竹村和子/フェミニズム基金助成獲得作品

河村哲二・陣内秀信・仁科伸子編著 菊判二九四頁・本体四〇〇〇円
持続可能な未来の探求「3・11」を超えて

「グローバル・リセッションによる社会経済システム・文化変容システム・サステイナビリティ」
執筆者：サスキア・サズケン/スナダグ・セン/スワタナ・タニ・タニ
アルマンド・モンタナリ/ダロコ・ラドウィッチ/松橋晴俊

御茶の水書房

〒113-0033 東京都文京区本郷5-30-20
電話03-5684-0751
http://www.ochanomizushobo.co.jp/

■特集・学術書棚のつくりかた

「つながり」からの人文書棚

鈴木慎二（BOOKS隆文堂）

店舗の大きさと人文書の比率

人文書の担当になって、実質は六年程度。他店の人文書担当者と比較したら短いと常々思っているが、駅から一、二分で、一五〇坪の店の大きさの割に人文書や社会科学書の棚が良いというお話は、営業訪問にお見えになる版元さんから繰り返し聞く。

駅前店の人文書の棚づくりの一つの例として、見ていただきたい。

初期の棚づくり

人文書の担当になった頃、三人のお客様の購入する本を参照に棚づくりをしていた。仮にA、B、Cさんとする。

Aさんは、新刊情報「これから出る本」を定期でとっていた方で、気になった新刊をリストにして予約をしに来店

された。岩波書店の本を多く注文されて、内容は、固い本が多かった。店頭購入されることはあまりなかったけれども、予約してもこういう本を買う方が、この地区にはお住まいなのだと認識した。

Bさんは日本語検定の監修で著名な方。来店時には、日本語関係の本を棚在庫から一気に購入されるような勢いがあった。購入する本の傾向を見て、中井久夫『私の日本語雑記』（岩波書店）、山田孝雄『山田国語学入門選書 一〜四』（書肆心水）などを棚に並べたら、即購入してくださった。お好きな本の傾向を掴むことができ、購入という形になって、とても嬉しかった。

Cさんは、著名な作家。以前の職業からか、ご信仰（キリスト教）の柄からか、窺い知ることができなかったけれども、とても勉強熱心な方。近所にお住まいだった頃、お買い上げになる本は、レジやスリッパでチェックしていた。

流行していたスラヴォイ・ジジエクの殆どの本を、棚一列分を使って揃えたら、即反応があり購入していただいた。心の中で「やった！」と叫んだ。が、当時の私はCさんが鋭敏な方だから購入してくださったことに思い至らず、再度仕入れて売れると思ひ込んでいた。案の定、他のお客様からの反応は皆無。返品をする羽目になった。このときに一人のお客様を想定して一冊の書籍を仕入れることと、一般的なお客様向けの継続して売れ続ける本の選別をするこの二つを同時併行して棚づくりをしなければ駄目なことを学んだ。

人文書棚の変化

転機になったのは、二〇〇七年に、二度に渡って行われた店舗の改装である。一回目の改装で二箇所にあったレジが一箇所に統合され、棚位置が変わった。二回目の改装は、同フロアにあったCDショップの撤退による増床で、店の規模が八〇坪から一五〇坪に拡大した。人文、社会科学全般で、棚一本半くらい多くなった。

人文書棚に対して、改装後のお客様の意識の変化を感じたのは、年配のお客様から、「みず書房の新刊置いてないの?」「藤原書店の棚ない?」などと尋ねられるようになったことだった。増床するとお客様がこう感じるようになるのだというのも驚きだった。

当時の人文書の棚に、みず書房の本は、新版の『夜と

霧』のみ、藤原書店とは毎月ハガキの注文書やり取りで新刊を仕入れるといった感じ。青土社、晶文社、新曜社、作品社、白水社、勁草書房、平凡社、春秋社、現代書館、彩流社、水声社とは担当になる前から、注文書を郵便もしくはFAXで送れば、指定配本可能だった。前任がみず書房を扱わなかったのは、取引条件が「買切扱い」だからかと思っていたが、数回問い合わせを受けたので、流石に駄目だと感じ、当時は伝手がなかったため、取次を通して、新刊案内及び注文書を送付してもらえよう手続きをした。条件は「注文配本と委託期限外は了解者返品」だった。以降お客様から、「この版元さん扱いないの?」の問い合わせを受けることは殆ど無くなったので、ご要望に少しはお応えできたのではと思う。

また今考えると、散文や詩、外国文学を除く、日本の小説への関心が希薄になったときに、人文書の担当になったことも大きかった。この前後から学生時代は敬遠していた、哲学書の面白さに目覚めたこともあって、棚の選書にも影響が強く出るようになってしまった。当時読んで今でも棚づくりに参照している著者は、日本だと、木田元、生松敬三、鶴見俊輔、藤田省三、橋川文三、萩原延壽ら。西洋の思想家だとアガンベン、ベルニオーラ。アガンベンを読み、訳者である岡田温司に惹かれ、岩波書店が主催した公開セミナーを聴講したこともある。それから田口久美子『書店風雲録』（ちくま文庫）を読んだことで知ったA・O・ラ

ウジヨイの『存在の大きいなる連鎖』（晶文社↓ちくま学芸文庫）。元リプロの今泉正光さんが「今泉棚」の種本と挙げたのを見つければ、晶文社さんへ慌てて客注注文したのをお願い出す。文学、美術、映画、音楽、歴史、宗教等を思想の言葉で綴れる、語れる人への関心は現在も持続している。

版元営業さんとの交流から

版元営業さんとの交流から生まれたものも多い。出版社の選択常備、アジアの本の会の棚プレート。彩流社の「フイギョール彩」の選書棚での常設も営業さんたちとの交流から生まれて来たもの。あるときに「販売姿勢が随分受身ですね」と問われたことがあるが、まったくその通りだと思ふ。営業さんの方が自社の刊行書籍のことをよく知っているのだから。

そんな中でも今から挙げさせていただく方は常に相互刺激を受ける方々である。

東京大学出版会の澤畑さん。交流のきっかけは法経会の新刊案内に入っていた、東京大学出版会の新刊案内に掲載されていた松浦寿輝『クロニクル』、田中純『都市の詩学』のどちらだったか忘れたが、注文書が同封されていなかった。新刊案内の余白部分に「配本ください。売りたいんです」みたいなコメントを書き入れ、東京大学出版会宛てに番線印を押してFAXをお送りしたこと。それを目に留めてくださった澤畑さんが、営業訪問してくださり、新

刊注文の手配やフェアが可能になった。それだけではなく、「Twitter」をやるのを薦めていただいたり、ご交流のある他社の営業さんの紹介もしてくださったりと、ただただ感謝。相互交流から生まれたのは、東京大学出版会の刊行している英語のテキストがA5判以上の大きさのものが多いため、NHKテキストとの併売するようにしたことだろうか。面陳にすると、英語勉強法のコーナーへ設置するよりもお客様が食いつきが良く、動きに格段の差がある。

新泉社の山田さん。ご当地本『鎮護国家の大伽藍 武蔵国分寺』『多摩の歴史遺産を歩く』の販促営業に来てくださったときからの付き合い。より交流が深まったのは、新泉社も参加されているNR出版会の新刊情報の連載企画「書店員の仕事」の感想をたまたま口にしたことだった。当時執筆されていたのは、ちくま正文館の古田さん、東京堂書店の佐野さん、海文堂書店の平野さんといったお歴々。山田さんが営業に見えたとき、「あの連載良いですね。凄く方々に執筆していただいていますね」と口にしたら、「書き手がなくて困っていますよ。鈴木さん書きませんか？」と言われたので、うやむやな返事をした後、お帰りになり、あれは山田さんの冗談だろうと思っていたのだが、NR出版会事務局の天摩さんがその日のうちに訪問され、新刊情報執筆の執筆が決まりました。掲載は二〇一一年三月。

山田さんには、新泉社も参加されている人文書の会の一つ「平和の棚の会」、自分が主催されている「れきべんの会」

藤原書店

不均衡という病

フランスの変容 1980-2010

E・トッド+H・ル・ブーズ 移民の増大、経済格差の拡大、右傾化……最新技術によるカラー地図分析で、未来を予見。全カラー 石崎晴己訳 3600円

内田義彦の世界 1913-1989

生命・芸術そして学問

学問は一人一人が「生きる」こととつながる。中村桂子/三砂ちづる/山田鋭夫/片山善博ほか 3200円

英雄はいかに作られてきたか

フランスの歴史から見る

A・コルバン 歴史家コルバンが初めて子どもに選定してきた名編集者による、最高の読書案内。小倉孝誠=監訳 梅澤礼・小池美穂=訳 2200円

生きる言葉

名編集者の書棚から

粕谷一希 古今東西の書物の世界を自在に選定してきた名編集者による、最高の読書案内。1600円

花の億士へ

石牟礼道子 東日本大震災を挟む二年にわたり語り下ろした、解体と創成の時代への渾身のメッセージ。絶望の先の“希望”へ。1600円

◎日本は国家として自立しているのか？

学芸総合誌 季刊 環 | 歴史 環境 文明
vol. 57 2014年春号

(特集) 今、「国家」を問う

小倉和夫+宮脇淳子+小倉紀蔵+倉山満
ブルデュー/宇野重規/立岩真也/伊勢崎賢治/鎌田慧/増田寛也/連水織ほか

(小特集) 近世・近代日本の国家観 田尻祐一編/松浦瑞ほか
小特集) 近世・近代日本の国家観 田尻祐一編/松浦瑞ほか
浦雅士ほか(インタビュー) 緒方正人(寄稿) 石牟礼道子ほか(寄稿) 川勝平太+芳賀徹ほか 3600円

月刊 機

B6変32頁 4月号 No.265
小倉和夫/宮脇淳子/
小倉紀蔵/倉山満/中
村桂子/緒方正人/
A・リビエツ/山田鋭夫/磯谷明徳
/大田堯/岡田英弘/加藤晴久ほか

年間購読料2000円(送料込) ◎見本誌・ブックガイド呈 ※表示価格税別

〒162-0041 東京都新宿区早稲田鶴巻町523
振替 00160-4-17013 TEL03-5272-0301
ホームページ http://www.fujiwara-shoten.co.jp/

にも誘っていただき、版元の営業の方や、書店員さんと交流する場を作っていただき、最初に営業訪問いただいた折に丹

生谷貴志の新社を購入され、「目利き」と感じたのだが、後に前職の早稲田生協時代に企画されたイベントの数々が人文書業界のうるさ型の人々も唸らせるものだったことを知った。永田さんが開催したフェアやイベントは、関わった版元さんのホームページで記録を見ることはできたけど、実際のお仕事を見られなかったのはつくづく残念だった。

その後数回、永田さんとお話をしたときに、「共通の友人が多いけど、相互交流があまりないよね。一回集まって会合でもやってみようよ」という話になり、一昨年の九月に人文書版元と書店員の会合を、永田さんと共同幹事みたいな役になって開催してみた。思っていた以上に多くの十三名の方に参加していただいた。普段交流があまりない版元さん同士を引き合わせることができたことは、収穫だったと思う。二回目以降の開催がまだに行われていないの

他の販促法

は、一重に幹事役の怠慢としかいうことができない。

SNS——Twitterや、最近はおっぱいFacebookへの投稿が多くなってしまっているが、思案しているフェアの企画や気になる本(主に新刊)をアップしたりすると、関心を持つ方が多くいるのに驚いた。投稿を見た方からの感想も励みになる。

人文書のこれから

人文書が売れないのは確かかもしれない。が、お客様が関心を持っていない訳ではない。それを版元営業さんとの共同作業で、関心を持たせるようにしていく、持たせることが、人文書の担当の仕事ではないかと思っている。

理想は人文書の新刊を棚に差した段階で、すぐにお客様が手に取りレジに向かってくれること。そういう棚を少しでも目指すことを目標にして頑張りたい。

■特集・学術書棚のつくりかた

地方書店の棚、むかしといま

家島聖司（今井書店出雲店）

棚づくりの経験

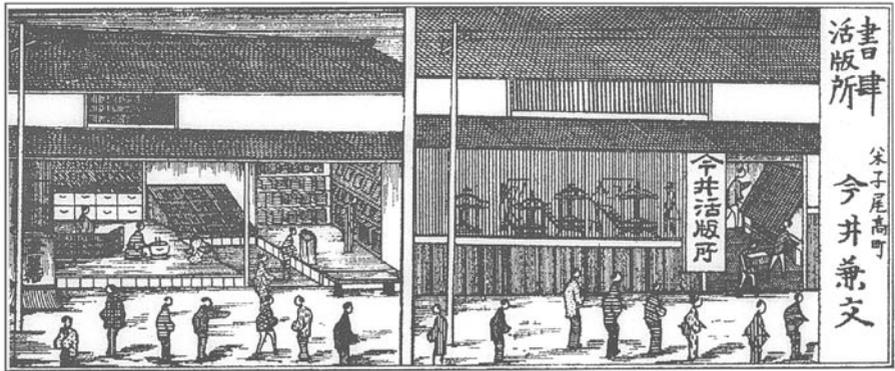
先頃、科学史家の中山茂氏が亡くなられた。トーマス・クーンの『科学革命の構造』（みすず書房）の翻訳で知られ、この本の中で紹介された「パラダイム」という言葉は、発売当時、流行となった。哲学の中に科学について論じる科学哲学という分野があることを知ったのはこの本からである。ここから、認識論や還元主義、そして構造主義へとつながり、そこから、心の哲学、分析哲学、生命倫理、疑似科学へと、さらに細分化された裾野の拡がりを知ることになるのだが、この一冊が棚をつくる際の指針を与えてくれたことで印象に残っている本だ。最近話題の「コピペ」騒動も科学者倫理としてこの分野に入る。

棚に本を陳列する際、タイトルあるいは著者名でどこに入れるべきか判断できれば一人前。新刊は著者の経歴を見

たり、巻末の文献紹介や読書案内を普段は参考に陳列している。一冊の本が与えてくれる指針から派生した棚の中の本たちは、タイトルだけでは連想できない「つながり」をもっている。実際、棚から一度に何冊かまとめて購入していただくことで、在野の知識人に棚のつながりを認められたのだと個人的に感じる。専門書はすぐには売れないとよく言われる。しかし、昨今のデータで管理された現場でも、棚に残すべき本を見極めることができる。それがプロの仕事だと思う。

伝えたい経験

一冊の本から棚の構成が決まっていくという経験は、新人の人文書担当者には、時間や資金がかかってもぜひしてほしい。その一冊の本に出会うまでの読書体験が、人文書担当として成長する過程に必要であると思う。そうしてで



今井書店創業期の店舗風景

きた棚からお買い求めいただく喜びは、何物にも代えがたいはずだ。

人文書のジャンルは繋がっている。哲学、宗教、心理学、社会学、歴史のどのジャンルから入っても、他のジャンルに繋がっていく。とにかく、文庫や新書の入門書からでもよいのだ。人文書のファンになることだ。立花隆氏という「読書体験こそが最高のエクスタシー」。これこそが、人文書担当になる条件かもしれない。

創業の歴史

今井書店は、創業時から専門書の販売をしてきた。一八七二年（明治五年）、長崎で蘭語と医学を学んだ初代今井兼文により、山陰は米子の地で、医業の傍ら、自らの蔵書や買い取った書物を販売し、その後、活版印刷を始めた。現在は、鳥取・島根の両県に展開をしている。ドイツの書籍学校に学んだ、三代今井兼文の遺志により二〇一二年に設立したNPO法人「本の学校」の名で、ご存知の方もいらっしゃると思う。

創業期の店頭風景図を見ると、棚には本が整然と並べられ、広い間口を設け、往来する人々から一目で扱っている商品がわかるよう工夫されている様子がうかがえる。

山陰という「地方」で専門書売っていたというのは、西洋文化を貪欲に取り入れようとしていた文明開化期にあつて、今でいう情報産業の一部門を担い、最先端の情報を

地域の人々に提供していたという意味で特筆できることではないだろうか。

在野の知識人

こうした歴史は、地域の人々の知識欲に支えられてきた歴史でもある。

地方の書店というと、お客様は大都市の大手書店との比較で語られることが多々ある。今のネット社会においては、情報のすばやい共有化が進み、あまり地方と大都市という図は意味をなさなくなった。そのため、大手書店同様の品揃えを期待され、当然のことながら、書店員より本について詳しくご存知のお客様に、こちらが教わることが多いのが現実だ。そういったコアなお客様なのだろう、たまに棚の本の配置を変えてあるのを発見すると、なるほどと納得してしまうこともある。我々の本の知識は広くて浅い。もちろん、得意とするジャンルはあるだろう。それでも、ある分野に徹底的に詳しい在野の知識人には敵わないのである。

フェアと棚

そういう本に詳しい専門書のファンの方たちにも、人文会企画の「書物復権」「四六判宣言」などのフェアや、歴史書懇話会の「毎月のオススメ本」などは毎回待ち望んでいた。また、最近始まった東京大学出版会、白

水社、みずす書房の三社が企画した「レビュー合戦」は、普段見えない出版社の担当者の方が他社の本を紹介するという企画で、読者でもある担当者を身近に感じることができ好評で、専門書のフェアとしては好成績を残している。

「書物復権」は、長い間品切れになっていた書目であるため、高価なものが多いが、資料性が高いためコアなファンには喜んでいただいている。これらの本は、フェア期間終了後も残すことで、棚の充実に利用している。専門書のフェアを展開するというのは、棚に常備すべき書目を探すことでもあるのだ。

また、「四六判宣言」は装丁の面白いもので構成され、内容も「文庫では読めない本たち」と謳っているだけのことはあり、棚の中では、専門書の入門書としての役割も持っている。

オリジナルのフェアも展開した。担当になって間もない頃、人文会後援により、「知悉」というタイトルで人文書を幅広く集めたことがある。東京大学出版会の方には、遠方より来ていただき、棚づめを手伝っていただきながら、それまで思い込みでつくっていた棚づくりをイチから教えていただいた。

棚は生き物といわれるが、劇的に変化することはない。こうしたフェアを地道に展開し、地域のファンの傾向をつかむことが、新たな人文書ファンをつくり、棚を活性化する方法になっているといえる。

紙の本でするべきこと

NPO法人「本の学校」では、毎年「書店人教育講座」として、出版関係者、図書館関係者などの本に携わる方たちを講師に招き、出版界の現状とその周辺の事情を聴く機会を設けている。

今年五月にあった講座では、専修大学の植村八潮氏の講義を聴くことができた。その中で、電子出版の進んでいる国はアメリカと日本であり、ヨーロッパの国々は紙の本の歴史に対する誇りを持っており、ほとんど浸透していないこと、また電子出版市場が印刷出版市場を駆逐する、いわゆる出版カニバリズムが起こるといわれ、出版不況という状況が続いているが、主要要因は雑誌の落ち込みであり、書籍はそれほどでもないことが話された。そして最後に「信頼性と速時性の役割分担」というキーワードで、紙の本の生き残る方向性を示された。

つまり、我々は紙の本の歴史に誇りと自信を持つべきで

あり、そして読者が紙の本でしか得ることのできない特権を、まだ提案できるということなのだ。

「つながり」

この原稿を書いて感じたのは、やはり、「つながり」の大切さだ。出版社担当者として感じるのは、「つながり」の入り、あるいは苦労話が伝わり、それによって我々が棚のどこに入れるべき本なのかの情報となり、そして最終的にコアなお客様に本の情報として伝わっていくのだと思う。また、地域との「つながり」があったからこそ、地域文化の担い手として一四二年間、専門書を在野の知識人に提供してこられたのではないだろうか。

時代の流れを見据えつつ、これからも電子書籍には代わることでない専門書を、リアル書店として紙の本で地域の専門書ファンの要望に応え、提案していく。これが地方の書店として、むかしもいまも変わらない姿なのである。

日独公法学の挑戦

松本和彦(編)

グローバル化社会の公法

国境や公私の区分などの「境界線の溶融」が現代公法の世界に与えるインパクトを、日独の研究者が論じる。大阪大学とベルリン自由大学によるシンポジウムの記録。

■5,300円+税

二院制の比較研究

英・仏・独・伊と日本の二院制

岡田信弘(編)

歴史的な経緯を踏まえ、各国のアクチュアルな問題状況を解析する。

■5,500円+税

IMFと世界銀行の最前線

日本人職員がみた国際金融と開発援助の現場

井出穠治・児玉十代子(著)

国際機関の日常とは? どんな仕事をしているのか? 世界で勝負するための資質とは? 組織の概要から日常業務までを若手職員の視点から解説。

■1,800円+税

精神医学の实在と虚構

村井俊哉(著)

精神医学に根強く残る「本質主義」——表面的な事象の背後に「もつと本質的なもの」が存在する——への根本的批判。

■2,400円+税

等長地図はなぜ

地図と石鹸膜の数学

できない 西川青季(著)

地球上のすべての2点間の距離を正しく示す等長地図はなぜ作れないか、地図と石鹸膜に潜む秘密を微分幾何を通して考える。

■2,400円+税

P≠NP予想とはなんだろう

ゴールデンチケットは見つかるか?

ランス・フォートナウ(著)水谷 淳(訳)

もしP=NPだったら、すばらしい未来がやってくる!?! 巡回セールスマン問題、四色定理、暗号、量子コンピュータなど、計算の限界にまつわる話題を、数式を用いずやさしく解き明かす!

■2,200円+税

日本評論社

〒170-8474 東京都豊島区南大塚3-12-4
TEL:03-3987-9821 <http://www.nippon.co.jp/>

■ 特集・学術書棚のつくりかた

書物による大学

三木拓 (法政大学出版局)

〈叢書・ウニベルシタス〉一〇〇〇番突破記念フェア

〈叢書・ウニベルシタス〉は、一九六七年のエルンスト・フィッシャー『芸術はなぜ必要か』にはじまり、二〇一三年のジャック・デリダ『エクリチュールと差異〈新訳〉』で、一〇〇〇番を突破した。

これを記念して、二〇一四年二月一七日から三月三〇日のあいだ、ジュンク堂書店池袋本店で、「叢書・ウニベルシタス」一〇〇〇番突破記念フェアを行なった。四階人文書フロアの四本のフェア棚で、エスカレーターを昇ってすぐのもっとも目立つところに置いていただいた。フェア期間内の三月一日には、トークイベント「叢書・ウニベルシタス」一〇〇〇番とともに考える、「いま哲学をすること」(講師中島隆博先生・池田喬先生)を催し、幸い満席にすることができた。お二方とも、図書館で〈ウニベ

ルシタス〉を全点見ることではあるが、そこではカバーを剝がれた文献として存在するのであって、このように書籍として一度に俯瞰できる機会は書店でしか得られないことを強調されていた。

フェアへの出品は、通常出品しない僅少本も含め、〈ウニベルシタス〉で在庫のあるものすべてとし、八三九点八七冊の出品となった。一〇〇〇番突破といいつつも一〇〇〇点すべて出品できないのは、品切れなど多量な事情のためだ。新刊以外はすべて棚差しとし、〈ウニベルシタス〉の刊行番号順で展示した。その結果、フェア棚四本各八段(通常の七段に一段増設していただいた)を、〈ウニベルシタス〉で埋め尽くすかたちとなった。フェア開始を告知してくださった「池袋本店人文担当ツイッター」でのつぶやきにあつたように、まさに「白い壁」の出現である。このつぶやきに対するリツイートは三〇〇〇を超えたそうだ。



ジュンク堂書店池袋本店に出現した「白い壁」

フェアの開催時期については、一〇〇〇番到達のかなり前から話にはなっていたのだが、小局の都合で先のぼしになっていった。その理由として、『叢書・ウニベルシタス』一〇〇〇番到達記念ブックレット』の制作があった。通常は控えめな装丁の〈ウニベルシタス〉だが、このブックレットは、パール調の表紙に、昔ながらの「ウニベルマーク」が銀箔で押してある。そして外装もさることながら、内容はさらに豪華で、小局編集部によるコメントつきのカタログに、高山宏氏、松岡正剛氏、保坂和志氏、牧野英二氏による個性あふれる寄稿文が収録されている。初版一万三〇〇〇部を発行したのだが、嬉しい誤算で配布から一カ月でほぼ在庫を消化してしまった（池袋店でのフェアでは、このブックレットを累計八〇〇冊出荷した。一日平均にするると、毎日ほぼ三〇冊がお客様の手にわたっていった計算となる）。

おかげさまでフェアは順調にスタートし、最終的におよそ一〇〇万円の売り上げとなった。集中レジのためこの結果が純粋にフェア棚からの売り上げかどうかはわからないが、お店にご迷惑をかけないですみホッとしている。また、僅少本は出品した書目の多くが購入にいたっていることがわかり、お客様もしっかりこのフェアをご覧になってくださっているのを実感した。

言うまでもないことだが、いくら〈叢書・ウニベルシタス〉が一〇〇〇番を突破したといっても、〈ウニベルシタス〉

だけで人文学の叡智の全領域をカバーできるわけもない。人文書の棚は、さまざまな版元のさまざまな書籍がそれぞれ相互的に関係しあって、さらなる高度な意味を構成するのが特徴である。たとえばハンナ・アレントの翻訳書は見ているとおもしろい。本来の政治哲学の棚のみならず、現象学、ユダヤ思想、マルクス主義の系譜に配置されているのを見たことがあるが、ハイデッガーの隣にわざわざ並べられていることもある。それによって読者は、その棚の意味を読み取り、目的の書籍を見つけることができるのだ。いわば、購売行為をつうじて棚の構成にいくばくか参与することもできるわけだが、そこに書店という空間の創造性があるならば、いつもはいろいろな棚にばらばらに置かれている〈ウニベルシタス〉の一点一点が、他版元の良書をもさまざまな新しい文脈に関係づけ、思わぬ出会いをもたらすような、革新的な役割を担ってほしいと思う。

「棚」から「書物による大学」へ

今回のフェア棚では、各書目を一点ずつ、置けるかぎりすべて刊行番号順に展示した。大いに手前味噌な引用ではあるが、それは高山宏氏がかつて、「現在の日本の翻訳ということを考える場合にすぐ念頭に思い浮かべるべきものは法政大学出版局の『ウニベルシタス』という名の叢書であるろう」とし、「めまぐるしかった批評モードの変化というものをまるで正直な化石みたいに痕跡している」（『英語青年』

研究社出版、一九九六年二月月号）とご高評してくださったように、系統的に一定のテーマを追究している叢書の全体像を見渡せる点では、大変稀少な機会になったと思う。

このことは、「書物の大学」としての〈叢書・ウニベルシタス〉の性格をよく表わしている。一九世紀以降の哲学、思想史、文化・文明論、宗教、歴史、芸術、文学論、自伝・紀行、科学論、社会科学、大学論、読書論、また一九七〇年代から八〇年代にかけては現代思想というように多岐にわたるジャンルを刊行し、そのなかでは本邦初紹介の著者も多い。また同一の著者で一〇点以上の刊行があるミニ著作集同然のものもあれば、デリダ、ドゥルーズ、リオタールの著作に異論をぶつけるフェリー、ルノーなどヌーヴォー・フィロゾフの著作や、エリアス『文明化の過程』に対するデュル『文明化の過程の神話（全五巻）』などの論争的書物もある。『群衆と権力』のエリアス・カネッティのように、刊行当初は一般の話題にならなかつたものでも、後にノーベル賞を受賞して数多くの読者に恵まれたものもある。そうした諸学混交的なものがひとつのパッケージに共存しているのが、この叢書の特徴なのだ。

〈ウニベルシタス〉は、他の版元の書籍とともに存在し、そしてその関係を縁としてさらなる意味を生起する。ふだんは、やや控えめな存在感をもたず、棚に差されている。しかしフェアになると、それは「棚」から「白い壁」へ、さらに「書物の大学」としてその姿を現わすといえるだろう。

大学出版部ニュース

表示価格は税別です。

●大学出版部協会創立五〇周年記念シンポジウム・ブックレット刊行

協会創立五〇周年を迎えた昨年、「新しい社会を拓く大学の力」と銘打った記念連続シンポジウムを開催しました。盛況だったそのイベントの成果を二冊のブックレットとして刊行します（発行・大学出版部協会／発売・東京大学出版会）。

▼座小田豊・田中克・川崎一朗『防災と復興の知―3・11以降を生きる』（一〇〇〇円）哲学・生態学・地震学による対話を通して自然と社会を千年単位で見直し、再生のための知のあり方を探る。

▼中村哲之・渡辺茂・開一夫・藤田和生『心の多様性―脳は世界をいかに捉えているか』（二〇〇〇円）心の働きの多様性を、比較認知科学・発達認知科学の視点から分かりやすく解き明かす。



×月〇日

協会に大学出版のプロは沢山いるが、その創設に関わった方は何人いるだろう。そうした難業に自ら取り組もうとされる方には心から敬意を表したい。奈良女子大学小路田泰直副学長はそういうお一人である。売れそうなものと売れない専門書の両輪を動かしたいとの思いを語られる。土地柄中古ものは強いわけだが、それに頼らず、フレッシュな知性に訴える出版姿勢を堅持したいという。大学出版人の輪は私たちが考えている以上に広い。

×月〇日

事務局のパソコン不調のため、しばらく協会DMの宛名修正がたまっていた。3月なので異動、退職、たまに送り付け不要なども。案外多いのが、宛名が正しいのに不明につき返送（えっ？）。

5月30日

神楽坂の日本出版クラブ会館にて、定時社員総会。議題は、定款変更、ほか。その後、懇親、乾杯、笑顔。五一年目の学術出版という風雪がまたはじまる。

（事務局日誌より）

北海道大学出版会

▼吉田文和・荒井眞一・佐野郁夫編著『持続可能な未来のためにII―北海道から再生可能エネルギーの明日を考える』（A5判・三三〇〇円）地球温暖化問題と再生可能エネルギーの未来を議論する。

▼高橋信隆・亘理格・北村喜宣編著『環境保全の法と理論』（A5判・六五〇〇円）環境保全の法と判例を包括的かつやさしく解説する最新の法学テキスト。

▼平沢和司著『格差の社会学入門―学歴と階層から考える』（A5判・二五〇〇円）結果と機会の不平等という視点から格差社会を考えるための社会学テキスト。

▼北原次郎太著『アイヌの祭具 イナウの研究』（B5判・一三〇〇〇円）祭具イナウを題材に、アイヌ宗教文化を描出。

▼飯坂晃治著『ローマ帝国の統治構造―皇帝権力とイタリヤ都市』（A5判・五〇〇〇円）帝国官僚の役割に着目し、帝政前期の皇帝権力と都市の関係を考察。（北海道大学大学院文学研究科研究叢書25）

▼A・カンチュガ著／津曲敏郎訳『増補改訳 ピキン川のほとり―沿海州ウデへ人の少年時代』（A5判・二二〇〇円）極東少数民族のライフヒストリー。

弘前大学出版会

▼李永俊・渥美公秀監修『東日本大震災からの復興(1) 想いを支えに』(A5判・二四四頁・二八〇〇円)「後世のためになるならば」と、岩手県九戸郡野田村の住民一九人が語った東日本大震災の経験。「聴き書き」によって残された多様な物語から、震災の瞬間、復興の実情、今も続く苦労や悲しみ、そして思い描く未来が見える。



▼弘前大学大学院保健学研究科現職者研修実行委員会編『被ばく患者対応トレーニングマニュアル』(A4判・五二頁・一四〇〇円) 現職の看護職者や診療放射線技師を対象とした研修をもとに、トレーニングを行うための準備から、基本的知識・技術の修得、研修の実践までをまとめた一冊。

東北大学出版会

▼東北大学大学院文学研究科出版企画委員会編『地域』再考―復興の可能性を求めて(四六判・二二〇〇円) ※人文社会科学講演シリーズⅦ

▼沼崎一郎著『台湾社会の形成と変容―三元・二層構造から多元・多層構造へ』(四六判・二〇〇〇円) ※人文社会科学ライブラリー第3巻

▼東北大学高等教育開発推進センター編『書く力』を伸ばす―高大接続における取組みと課題』(A5判・二〇〇〇円) ※高等教育ライブラリー8

▼小田中聰樹著『国防保安法の歴史的考察と特定秘密保護法の現代的意義』(四六判・三五〇〇円) 特定秘密保護法案は、なぜ危険なのか? 「国家と秘密」秘密と戦争」の歴史的・現実的な関連を明らかにし、国民統制に警鐘を鳴らす。刑事訴訟法の大家による渾身の一冊。

▼栗原隆編『感性学 触れ合う心・感じる身体』(A5判・二八〇〇円) 知の根底を支える感性の働きを、文学、社会学、哲学、表象文化論など多様な研究領域から思考。心温まる、心あふれる生き方をするための「感性の復権」を目指す。

流通経済大学出版会

▼野尻俊明著『貨物自動車政策の変遷』(A5判・三七四頁・四六三〇円)

わが国で物流事業に対する規制緩和法である、いわゆる「物流二法」が制定されて四半世紀が過ぎた。その中核となった貨物自動車運送事業法は、従前の道路運送法による形骸化した事業規制から、市場、事業の実情にあった規制制度への変更を企図して、規制の緩和化の方向で制定されたものであった。しかし、近年、同法についてはそのマイナス面が指摘され、「行き過ぎた規制緩和」として見直し論議が生じてきた。

本書は、貨物自動車運送事業法を中心に同法の運用と課題について検討を加えたが、貨物自動車運送事業が市場での公正な競争条件を確保し、今後とも引き続きわが国の経済を支える基幹産業としての役割を果たすためには、事業をめぐるガバナンスの根幹を何処に求めれば良いのか、改めて考える必要を強く感じたことが背景となっている。検討に当たっては、貨物自動車政策の歴史、関係立法、規制緩和・改革の動向を踏まえて、整理、分析等を行った。

聖学院大学出版会

▼平山正実・堀肇編著『ヘンリ・ナウエンに学ぶー共善と希望』(A5並製・一四四頁・一八〇〇円)

第I部には聖学院大学総合研究所カウ
ンセリング研究センター「臨床死生学研
究」の一環として開催されたシンポジウ
ムでの大塚野百合、小淵春夫両氏の講演
をまとめ、第II部には医師の黒鳥偉作・
平山正実、および臨床牧会スーパード
ザーの堀肇による論文を所収。

ヘンリ・ナウエンは現代人の孤立・孤
独・霊的渇きをどう理解し、それに応え
るためにどのようにアプローチしたか。
彼の私たちへのコミュニケーションの
スタイルは何か。それが私たちの魂を奪い、
感動を与えるのはどうしてなのか。素晴
らしい著作群の背後にある創作の秘密を
さぐる。ナウエンの霊性や思想の理解、
相手と影響し合うコミュニケーション方
法の理解に役立つ一冊となっている。



聖徳大学出版会

▼川並知子・広瀬知里共著『子どもと親
のためのおりがみアイディア』(B5判・
一三八頁・一五〇〇円) 幼児が無理なく
折り紙遊びを楽しめる方法や、「折る」
だけで、簡単に折り紙を三等分や五分
分・六等分にできる技法も取り上げた。
新たな折り紙の魅力に気づける一冊。



▼聖徳大学特別支援教育研究室編『改訂
版一人ひとりのニーズに答える保育と
教育ーみんなで進める特別支援』(A5
判・二一八頁・一五二八円) 特別支援教
育について子どもの理解と指導・支援に
必要な基礎知識を初学者にも分かりやす
く解説。適切な指導・支援を行うための
ノウハウが充実している。



麗澤大学出版会

▼M・W・バロビッツ著／中山理監訳
『学校が変わるスーパーテクニクアー
メリカの人格教育からのアプローチ』(A
5判・二二八頁・一六〇〇円) アメリカ
の人格教育 (Character education) 徳性
を備えた人間を育てる教育) と発達学の
専門家である著者によるエッセイ集。筆
者は、さまざまな教育機関でワークショ
ップや講演会、そして教育改善のための
指導や啓蒙活動を行っている。それらの
経験と考察に基づいて、教育学の洞察や
教育実践に関する具体的な提言を明確な
論理で展開。先生たちが教育の場で行っ
ていることを意想外の視点から分析し、
教師と学校再生の道筋を示す。

〈目次〉目的について、意図的に／前途
洋々と輝く子、色あせた子、傷つけない
子／スーパーモデル(超模範教師)／な
ぜ家庭ではないのですか／ジェダイの教
育／あなたのお父さん(そしてお母さん)
は誰?／声が聞こえる——エンパメント
の教育学／自分自身にとって最良の教師
になるには／スキル・スピーク／導く
勇気／一体、何を言ってるの?／違って
いたい／他

慶應義塾大学出版会

- ▼井筒俊彦著『井筒俊彦全集 第五巻』（四六判・一六四〇頁・六八〇〇円）二十一年に互る海外での思索が日本語で結実する時代（一九七八年―八〇年）の著作を網羅。対談、禪問答論、師や友を語るエッセイ、『イスラーム哲学の原点』等。池澤夏樹、山内志朗、合庭惇各氏の月報付。
- ▼中島隆信著『経済学ではこう考える』（四六判・二二四頁・一五〇〇円）「伝統文化」や「宗教活動」にも潜む経済合理性を、わかりやすく切れ味鋭い文章で解説。人間の幸せを実現する道具としての経済学の懐の深さを学べる入門書。
- ▼原大地著『マラルメ不在の懐胎』（四六判・三四八頁・二八〇〇円）十四の詩の全訳をひもときながら、詩人が〈詩人〉となる瞬間と〈虚構／フィクション〉が生まれ出る場に立ち会う。気鋭の著者が挑発的に放つスリリングな詩論。
- ▼長谷川一著『デイズニールランド化する社会で希望はいかに語りうるかーテクノロジーと身体の遊戯』（四六判・二八八頁・二五〇〇円）デイズニールランド的な非日常性が社会の隅々にまで浸潤する今、私たちには、いかなる生が可能なのか。

産業能率大学出版部

- ▼産業能率大学出版部『平成26年版 徹底解説 1次試験 インテリアコーディネーター資格試験問題』（B5判・二四〇〇円）
- ▼産業能率大学出版部『平成26年版 徹底解説 2次試験 インテリアコーディネーター資格試験問題』（A4判・三五〇〇円）
- ▼野村尚克／中島佳織／デルフィス・エシカル・プロジェクト著『ソーシャルプロダクト マーケティンガー社会に良い。信頼されるブランドをつくる3つの方法』（A5判・一七〇〇円）
- ソーシャル・マーケティングの考え方の中でも、特に「製品（プロダクト）」に絞って解説し、豊富な事例とともに紹介します。
- ▼日沖健著『ケースで学ぶ 経営戦略の実践』（A5判・二〇〇〇円）
- 経営戦略に直接的・間接的に関係する幅広い層を対象とした、グローバル競争を勝ち抜くための経営についてまとめた内容です。

専修大学出版局

- ▼稲垣悠一著『欠陥製品に関する刑事過失責任と不作為犯論』（A5判・三一六頁・三六〇〇円）
- 本書は、不作為態様の過失の一場面として脚光を浴びている製造物過失の場面を中心に、過失犯論と不作為犯論の理論的な接点の有無を検討する。その上で、不作為態様の過失について、純然たる過失犯論を理論展開し、その事案解決の方法を提示している。
- ▼手塚崇子著『幼保一体化施設の運営と行財政―就学前教育・保育の一元化をめぐる』（A5判・三〇〇頁・二六〇〇円）
- 少子化による就園率減少や、女性就労による保育所不足を背景に、幼保一体化が進められているが、本書はその運営実態や行財政について具体的に事例をあげて分析・解明している。
- ▼中西泰夫著『イノベーションの計量経済分析』（A5判・一八四頁・二六〇〇円）
- コストリダクション型のイノベーションを、研究開発、IT、特許の三方向から検討・考察している。

大正大学出版会

既刊紹介

▼伊福部昭作曲／片山杜秀・勝崎裕彦解説『交響頌偈「釈迦」』(B4判・一五〇頁・六六〇〇円)

二〇一四年に生誕一〇〇年を迎える日本を代表する作曲家伊福部昭。「ゴジラ」や「座頭市」などの映画音楽を手がけたことでも有名である。本書は、一九八八年に釈迦の生涯をテーマに作曲された交響頌偈「釈迦」の自筆楽譜の復刻である。また、一九八九年初演時の音源CDを付録とする。音楽評論家片山杜秀が伊福部昭の音楽と本作品の詳細な解説を、本学学長勝崎裕彦が釈迦の生涯を平易に論述している。仏教のみならずクラシックファン必読必聴の書である。

▼東儀秀樹著『雅楽のこころ 音楽のちから』(新書判・一七八頁・七二四円)

宮内庁楽師をつとめた後、世界各地で演奏活動をおこなう東儀秀樹。伝統芸能である雅楽と現代音楽との融合をはかる筆者が、楽器の発祥や音楽のもつ不思議な力、人間と音楽のかかわり等をさまざまに体験を通じて若者たちに語りかける。

玉川大学出版部

▼マシュー・リップマン著／河野哲也・土屋陽介・村瀬智之監訳『探求の共同体―考えるための教室』(A5判・四六〇頁・四〇〇〇円)「子どものための哲学(PsC: Philosophy for Children)」教育の先駆者・設立者の主著を初邦訳。批判的思考、創造的思考、ケア的思考とは何か、どうすれば育むことができるのか。教師は子どもたちにどのような支援をおこなえばよいのか。思考力は共同体のなかで、対話を重ねる過程により促されることを前提に、哲学教育・思考教育について理論と実践の両面から考察する。

▼ジョン・ペリー著／太宰久夫監訳『演劇入門ブックービジュアルで見える演技法』(B5変型判・一三六頁・三五〇〇円)身体のコンドイションづくりや稽古、上演本番での動きなど、アクターがたどる一連のステップを多彩なエクササイズで鍛える書。入門者からプロまでを対象に、言語や身体づくりを問わないベイスリックな演技法と演劇の基礎知識を、オリジナルカラーで豊富に紹介する。写真は日本人モデルで撮りおろし、巻末には日本語版付録「メイクアップ」を収録する。

中央大学出版部

▼松野良一・中大FLP編『証言で学ぶ「沖縄問題」』(二七〇〇円) 集団自決から逃走し孤児となった少年、同級生に手榴弾を渡した鉄血勤皇隊、コザ暴動で嘉手納基地に突入したロック歌手、沖縄のガンジーと呼ばれた反基地運動家、戦争マラリアと陸軍中野学校、「沖縄問題」を証言で学ぶ異色の力作。

▼大浦暁生監修『いま読み直すアメリカ自然主義文学』(三八〇〇円)ゾラに影響されながらも独特の世界を築いたアメリカ自然主義文学。十一名の新進・円熟の研究者が五年間の共同研究の成果として、それぞれ独自の現在の視線による新たな解釈をアメリカ自然主義文学の作品と関連作品に試み、その多様な姿を探究し明らかにする。

▼中央大学生産統合グループ著『CreoによるCAD/CAE/CAM入門』(二八〇〇円)3次元CADの一番の利点は、作成した形状を解析(CAE)や製造(CAM)等の様々な応用で活用できる点にある。Creoに対応するとともに新たに自由曲面の加工の章を加えた本書によって初心者であっても実習を通じてCADの効果を実感できる。

東京大学出版会

▼小島毅監修『東アジア海域に漕ぎだす』(全6巻・各巻二八〇〇円)「5巻のみ三〇〇〇円)」

日本にとって、中国や韓国との交流の歴史にはいかなる意味があったのか——国交なき時代に練りひろげられた海を介する往來の諸相を知り、「日本伝統文化」の起源を探るシリーズ。「国家」や「領土」を基軸とする歴史認識を越えて、人・モノ・情報が移動・交流する場としての「海域」を舞台に近代以前を捉えなおし、新たな歴史解釈の可能性を示す。

歴史学を中心とした人文学のみならず、建築学・植物学・環境など自然科学の視点も交えながら、やさしい叙述と多数の図版でわかりやすく提示する。

『1 海から見た歴史』(羽田正編)
『2 文化都市 寧波』(早坂俊廣編)
『3 くらしがつなぐ寧波と日本』(高津孝編)

『4 東アジアのなかの五山文化』(島尾新編)

『5 訓読から見なおす東アジア』(中村春作編)

『6 海がはぐくむ日本文化』(静永健編)

東京電機大学出版局

▼デビッド・アダミー著／河東晴子・小林正明・阪上廣治・徳丸義博訳『電子戦の技術(拡充編)』(A5判・三七六頁・四五三六円)

電子戦(Electronic Warfare)とは、電波・電磁波を使用した軍事活動の総称である。本書は好評の基礎編に続く第2弾。基礎編では扱わなかった重要な部分を補完するとともに、拡充編の内容に基づいた練習問題と詳解を収録し、「現場で使える実学性」を重視している。また、巻末には用語集も収録し、電波・電磁波の初学者にも平易に理解できるよう配慮して解説した。

▼初年次教育テキスト編集委員会編『フレッシユマンセミナーテキスト(第2版)』(B5判・一四四頁・二一六〇円)
本書は、大学新入生のためのワークブックである。時間や健康の管理、コミュニケーションのとり方、レポートの書き方等、大学生のルール、マナーをまとめた。新入生が有意義な大学生活を送るために、生活と学習の両面からステップアップを図ることを目的としている。

法政大学出版局

▼J・F・リオタール／松葉祥一訳『なぜ哲学するのか?』(二〇〇〇円) 哲学するという実践から真摯に応答して、現代思想のラディカルな真髄に迫る。

▼E・レヴィナス／三浦直希・渡名喜庸哲・藤岡俊博訳『レヴィナス著作集1 捕囚手帳ほか未刊著作』(五二〇〇円) 戦前から戦後期に書かれた哲学的な覚え書きや小説作品、講演原稿など未刊テクスト群を集成する著作集、待望の邦訳刊行!
▼J・ナベール／杉村靖彦訳『悪についての試論』(三二〇〇円) リクルールに影響を与えた二十世紀の知られざる哲学者の名著。思想の歴史のなかでも唯一無二の緊張と潜勢力をはらむ「悪」論とは。

▼M・グラックスマン／木本喜美子監訳『「労働」の社会分析』(三四〇〇円) 女性にとって、何が「働く」ことなのか? 理論と実証研究の統合を目指した英国の意欲的なオーラル・ヒストリー。

▼本田宏・堀江孝司編『脱原発の比較政治学』(二七〇〇円) 福島第一原発事故が投げかける問題を民主主義への挑戦ととらえ政治学的な視点から応答する。私たちがいますべきこととはなんだろうか。

武蔵野大学出版会

▼佐藤佳弘著『脱！ スマホのトラブル LINE フェイスブック ツイッター やって良いこと悪いこと』（四六判・一六〇頁・一二五〇円）児童・生徒がさまざまなスマホのトラブルに遭うようになった。小中高校で「スマホの危険」や「正しい使い方」について数多く講演をしている著者が、トラブルの事例と対策を豊富なイラストと共に解説する。



▼舞田敏彦著『教育の使命と実態』（A5判・四三〇頁・二八〇〇円）著者の『47都道府県の子供たち』『47都道府県の青年たち』に続く、統計から論じる教育社会学の著作第三弾。わが国の教育の「あり方」に真っ向から取り組み、教育が格差の再生産に加担している現実を統計データの分析から明らかにする。

▼五味政信著『五味版 学習者用ベトナム語辞典』刊行間近

武蔵野美術大学出版局

▼今井良朗編著『絵本とイラストレーション 見えることば、見えないことば』（A4判変型・二三三頁・三四〇〇円）一八〜一九世紀の貴重な挿絵、名作絵本、書店に並ぶ人気の絵本など、一二六作品二五〇の図版を収録。絵本を構成する挿絵（イラストレーション）と、端的に切り詰められたことば（テキスト）が重層的に意図する視覚表象のあり方を問う。多様な図像とともに絵本を理解し、絵本を学ぶ本格的な絵本論である。絵本を学ぶための文献集、絵本の美術館、ケイト・グリーンナウェイ賞、ランドルフ・コールデコット賞受賞絵本一覧を巻末に収録。

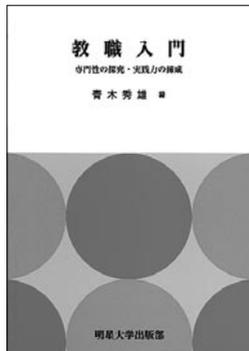
▼白尾隆太郎監修『パッケージデザインを学ぶ 基礎知識から実践まで』（B5判変型・一七六頁・二八〇〇円）

素材や印刷の知識から実際のデザイン開発まで、パッケージデザインを広く網羅した。視覚的な要素だけでなく、デザインの社会役割を熟慮し、本来のパッケージのあり方、素材の選び方、製作方法と構造の関係、商品と消費者の関係から店頭効果まで、パッケージデザインを総合的に学ぶ一冊。身近な商品一〇五例収録。

明星大学出版部

▼青木秀雄編『教職入門 専門性の探究・実践力の練成』（A5判・二八八頁・一六〇〇円）

教員養成の歴史、学校の組織・運営、教育行政と学校、教育法規、さらに社会環境との関わりなどに触れながら、教員に必要なとなる知識と心構えを解説する。



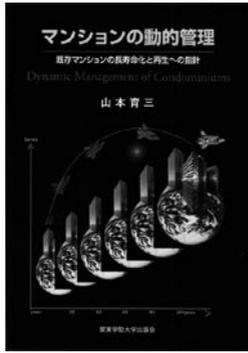
▼青木秀雄編『教職実践演習 磨きあひ高めあう熟意ある教師に』（A5判・二七二頁・二〇〇〇円）

▼青木秀雄編『現代初等教育課程入門』（A5判・三〇六頁・一六〇〇円）

▼吉富芳正編『現代中等教育課程入門』（A5判・二九八頁・一六〇〇円）

関東学院大学出版会

▼山本育三著『マンションの動的管理―既存マンションの長寿命化と再生への指針』（一八〇〇円）マンションは、区分所有者の合意によってのみその進路が決まる居住運命共同体である。それらマンションの「長寿命化」と時代のニーズに応えた改善による「再生」を目標に、著者の豊富な研究歴と管理実践で得た管理事例や提言を紹介し、マンションの積極的な管理「動的管理」の必要性を説く。



▼水沼淑子著『ジェイ・H・モーガン―アメリカと日本を生きた建築家』（二五〇〇円）丸ビル建設のために来日し、関東大震災後の横浜で活躍したアメリカ人建築家ジェイ・H・モーガン。本書は謎に包まれたモーガンの人生と作品について明らかにしたものである。

東海大学出版部

▼縄田浩志・篠田謙一編著『砂漠誌―人間・動物・植物が水を分かち合う知恵』（B5判・四三〇〇円）国立科学博物館叢書⑮ 北アフリカから西アジアにかけての砂漠という過酷な環境を生きる人間や動物、植物の姿を紹介する。



▼今原幸光・岩瀬文人・並河 洋著『相模湾産八放サンゴ類』（B5判・四五〇〇円）

▼小郷一三・藤田敏彦著『相模湾産ウミシダ類』（B5判・三五〇〇円）昭和天皇が六〇年にわたり相模湾において海洋生物の調査を続けられ、その研究成果を「相模湾産シリーズ」（全十二冊）として発表された。そこに含まれなかった未発表の重要な分類群（八放サンゴ類・ウミシダ類）を纏める。



※二〇一四年四月社名を変更しました。

名古屋大学出版会

▼阿曾沼明裕著『アメリカ研究大学の大学院―多様性の基盤を探る』（五六〇〇円）研究者・専門職双方の輩出で世界をリードするアメリカの高等教育は、どのように支えられているのか。大学院を動かす仕組みとお金の実態を、見通しよく整理した待望の書。

▼榎屋友子著『イスラームの写本絵画』（九二〇〇円）書物文化とともに花開いた驚くべき写本絵画。科学書から歴史書・文学書まで、色彩豊かな図版を多数掲載し、イスラーム地域の絵画芸術を基礎から本格的に解説する。

▼池上俊一著『公共善の彼方に―後期中世シエナの社会』（七二〇〇円）公共善の政治的理想のみならず、そこに生きる人々の社会的絆や感情生活に注目することで、イタリア中世都市の深層から新たな創造への力を掴みだした労作。

▼坂本達哉著『社会思想の歴史―マキアヴェリからロールズまで』（二七〇〇円）自由と公共をめぐる思想的遺産を読み解き、現代社会をよりよく考える。近代社会の通奏低音をなす思想の姿を浮び上がらせた、刺激に満ちた最良の道案内。

三重大学出版会

▼鈴鹿医療科学大学編『医療人の底力実践』(B5判・一三九頁・一〇〇〇円)

底力教育とは何か/介護の基礎知識/救急救命技術/コミュニケーション/接遇・敬語・マナー/薬物/タバコ/メンタルヘルス/チーム活動/情報収集と情報発信/ディベート/ボランテア

▼鈴鹿医療科学大学編『医療人の基礎知識』(B5判・二六七頁・一〇〇〇円)

I 人のいのちはいつ始まるの?/人は死んだらどこへ行くのだろうか?/生殖医療/出生前診断・人工妊娠中絶/遺伝子操作と遺伝子治療/脳死・臓器移植/延命治療・尊厳死・終末期/緩和ケア/インフォームド・コンセント II 医学を学ぶための基礎知識/人体の階層構造/脳の構造と機能/筋収縮のしくみ/消化管の構造と機能/分子細胞生物学/悪性腫瘍/生体防御と感染症・循環器の病気/運動器の病気/脳と神経の病気/消化器の病気/呼吸器の病気 III 医学医療史/医療統計/日本の医療政策/医療制度/保険制度/社会保障制度/医療経営/高齢者医療、終末期医療/医療事故と医療訴訟(以下略)

京都大学学術出版会

▼『災害対応の地域研究』[全5巻]刊行開始。溢れる情報から地域の物語をどう読み解き支援に繋げるか。世界各地の現場を知り、災害に強い社会への「復興」を探る。既刊II山本博之著「復興の文化空間学―ビッグデータと人道支援の時代」(三四〇〇円) 西芳実著「災害復興で内戦を乗り越える―スマトラ島沖地震・津波とアチェ紛争」(三四〇〇円)。

▼田中雅一編『越境するモノ』フェティシズム研究2(四八〇〇円) 呪物、聖遺物、博物館から秘宝館、果てはガンブラまで――人を魅惑する怪しげなモノたちが、私たちを新しい地平へと誘っていく。人とモノと身体の関係領域横断的に描き直すシリーズ第2巻。

▼佐藤文隆編『林忠四郎の全仕事―宇宙の物理学』(二四〇〇〇円) 二〇一〇年にこの世を去った天文学の巨星、林忠四郎。林自身が晩年に残した自叙伝は、二〇世紀半ば以降の理論物理学の発展の経緯を、社会的文脈も含め、生き生きと伝える。また和文論考や講演・対談・インタビュー記録、門下生達による寄稿集等を通じて、その研究と教育の全仕事を伝える。

大阪経済法科大学出版部

今回は既刊書の紹介をします。

▼細田龍介・山田智貴共著『環境と海洋―海から見直す地球環境』(B5判・二〇〇頁・一八〇〇円)

海洋の物理現象や生態系、海洋調査や海洋資源などを著者自ら作成した多数の図表でわかりやすく解説。そして、人間の生活や社会・経済活動が海洋および海洋生態系に与えた影響を海洋環境と人間活動という視点で捉える。

目次 ①地球システムと海洋・海域/②海洋における物理現象/③海洋における生物と生態系/④海洋調査・探査/⑤海洋資源とその利活用/⑥海洋空間利用/⑦地球規模の環境問題/⑧沿岸域の環境問題/⑨人間生活・活動と沿岸陸域環境/⑩環境保全・改善/⑪環境認識、市民生活と環境意識



大阪大学出版会

▼大阪大学歴史教育研究会（代表桃木至朗）編『市民のための世界史』（一九〇〇円）世界史全体を鳥瞰した構図を提示し、歴史を学ぶ面白さや意義を伝える画期的な『阪大史学の挑戦』書▼木戸衛一編『平和研究入門』（二二三〇〇円）平和学を書齋の学問にとどめず、社会の現場から追求。戦争につながる暴力の根を見つめ、平和の主體的創造を呼びかける

▼湯浅邦弘著『竹簡学 中国古代思想の探究』（五二〇〇円）近年、中国で続々と大量発見された紀元前の竹簡資料を解析して従来の文献から得られなかつた中国古代思想の実態に迫る。新たな学問領域「竹簡学」の構築を目指す▼カフエフイロ編『哲学カフエのつくりかた』（二四〇〇円）シリーズ臨床哲学2巻。日本全国に広がる哲学カフエから社会のなかで互いに自分の言葉を交わしともに考えることの意味を見つめる▼岡田千あき著『サッカーボールひとつで社会を変える スポーツを通じた開発の可能性』（二〇〇〇円）サッカーによる人と人とのつながり、コミュニティ形成、豊かな市民社会の実現を提言する。

関西大学出版部

▼山本幾生著『現実と落着―無のリアリティに向けて』（四六判・三〇〇〇円）現実は何のように形成され、どこからどこへ向かい、どこに落ち着く処があるのか。本書はデイルタイとショーペンハウアーの哲学を読解し、現実の様々な連関が織糸のように交差する（私）の直中に、その当処を求める。

▼宇佐見太市著『実践知性としての英文学研究』（A5判・三五〇〇円）本書は日本の英文学研究界が抱える諸問題を取り上げ、活性化を模索した論考である。日本における英文学研究界の将来を見据え、主要な思索の軌跡について、著者が振り返る。

▼章培恒・駱玉明主編／井上泰山・四方美智子共訳『中国文学史新著（増訂本）下巻』（B5判・九〇〇〇円）本書は斬新な視点による画期的な中国文学通史である。文学の発展は人間性の発展と歩みを同じくし、文学内部の進展は形式の進展を通して体现されるとの基本的認識に立ち、古代から現代に至るまでの作品を分析。近世文学を「挫折期」「復興期」「徘徊期」「変革期」に区分して論述。

関西学院大学出版会

▼田中耕一著『社会的なもの』の運命―実践・言説・規律・統治性』（四六上製・二五六頁・三〇〇〇円）

▼嶋村誠著『日英語に見るもの』のとなえ方』（A5上製・二七二頁・三八〇〇円）

▼大和三重著『介護人材の定着促進に向けて―職務満足度の影響を探る』（A5上製・一八八頁・二八〇〇円）

▼福永文夫／関西学院と社会運動人脈研究会監修『河上丈太郎日記―一九四九―一九六五年』（A5上製・五六四頁・一四〇〇〇円）

▼関西学院大学産業研究所編『航空競争と空港民営化―アビエーション・ビジネスの最前線』（四六並製・一二八頁・一三〇〇〇円）

▼柴山太編『日米関係史研究の最前線』（A5並製・三五〇頁・三〇〇〇円）

▼田和正孝編『KGりぶれつと37』石千見に集う―伝統漁法を守る人びと』（A5並製・一〇〇頁・九〇〇円）

▼澤谷敏行・五藤勝三・河口浩著『大学職員のための人材育成のヒント―失敗事例から学ぶケースワーク28の視点』（四六並製・一〇六頁・九〇〇円）

広島大学出版会

▼大塚豊記『国際連盟教育使節団 中国教育の改進黨—ヨーロッパ四賢人の見た日中開戦前夜の中国教育』（A5判・一八八頁・二五〇〇円）

一九三一年、ベッカー、トーニー、ランジュバン、ファルスキーからなる教育使節団が、国民政府の要請に基づき、国際連盟の知的協力国際委員会によって中国に派遣された。これら欧州の代表的賢人の目には、当時の中国教育がどう映ったか。彼らの手で作成された報告書が、中国の近現代教育史、国際関係史を読み解く貴重な史料として完全邦訳で甦る。

▼広島大学原爆死没者慰霊行事委員会編『原爆と広島大学「生死の火」』（学術編）（B5判・三二四頁・二二〇〇円）

広島原爆被害を受けた大学としての使命感に基づき、現場の資料による被害状況や社会的対応についてまとめた学術報告集。被爆追悼事業の一環として、非売品として発行された2点のうち1点の複製。広島大学の平和研究・放射線医学研究の原点ともいえるもので、放射線災害復興のための人材を育成するうえでも基礎資料のひとつに位置づけられる。

九州大学出版会

▼藤田陽子・渡久地健・かりましたしげひさ編『国際沖繩研究所ライブラリ 島嶼地域の新たな展望—自然・文化・社会の融合体としての島々』（A5判・三六〇〇円）島嶼地域が抱える諸問題を解決し、未来の展望を切り拓くための具体的な方策を提言。

▼北九州市立大学監修／田部井世志子・生田カツエ編『シリーズ北九大の挑戦 1 学生サポート大作戦—寄りそう学生支援』（B5判・一八〇〇円）画期的な学生支援の仕組みづくりから実践まで、実際に大学改革を担当する教職員の視点から解説する。学生を支えるために奔走する、教職協働の奮闘記。

▼馬場園明・窪田昌行『地域包括ケアを実現する 高齢者健康コミュニケーション—いつまでも自分らしく生きる新しい老いのカタチ』（A5判・一八〇〇円）保健・医療・介護・福祉を統合した高齢者住宅システムについて、先進地である欧米の事例や日本での導入例を紹介し、高齢者が最期まで豊かに生きるための新しいシステムを提唱する。

編集後記

▼膨大な本のなかで学術書のありかたをとらえ直すきっかけをつくってくださった鹿島茂先生のインタビュ。書店員による、読者と直接つながる現場の取り組みの紹介。「学術書棚」というものが存在するのなら、いったいどんなものか。誰がつくっているのか。三名の書店員はみなさん「自分の経験を見つめ直す機会になる」とおっしゃってくださいました。鹿島先生と、志の高い書店員に感謝。（M）

▼ユーモア溢れる洒落な文章により、本の魅力を余すところなく解き明かした好評の巻頭エッセイ「初版本、ナンセンスなフェティシズム」が、今号をもって終了します。また、洗練されたデザインと毎号異なる書体・配色により読者を魅了した表紙も、同時に終了します。二八回におよぶ連載執筆の酒井道夫先生、三年にわたる表紙設計の白井敬尚先生、および毎号手に取られた読者のみなさまに、この場をお借りして御礼申し上げます。

一〇〇号の節目を機に、連載と表紙、加えて編集体制を一新し、従来の誌面からさらなる飛躍を図ります。どうぞ引き続きご愛読のほどお願い申し上げます。

一般社団法人 大学出版部協会賛助会員社名簿

【50音順】2014年6月1日現在

株式会社朝日新聞社	〒104-8011	東京都中央区築地5-3-2
垂細垂印刷株式会社	〒380-0804	長野県長野市大字三輪荒屋1154
株式会社アベル社	〒162-0825	東京都新宿区神楽坂2-19 銀鈴会館408
尼崎印刷株式会社	〒661-0975	兵庫県尼崎市下坂部3-9-20
王子製紙株式会社	〒104-0061	東京都中央区銀座4-7-5
岡本出版発送株式会社	〒353-0001	埼玉県志木市上宗岡3-16-2
カクタス・コミュニケーションズ株式会社	〒100-0004	東京都千代田区大手町2-6-2 日本ビル10階
株式会社加藤文明社印刷所	〒101-0061	東京都千代田区三崎町3-6-9 NEX水道橋ビル
城島印刷株式会社	〒810-0012	福岡県福岡市中央区白金2-9-6
株式会社クイックス	〒102-0073	東京都千代田区九段北4-1-13 ニュー原鉄ビル5F
株式会社象川印刷	〒112-0012	東京都文京区大塚6-9-7
港北出版印刷株式会社	〒150-0002	東京都渋谷区渋谷2-7-7
三松堂印刷株式会社	〒101-0065	東京都千代田区西神田3-2-1 住友不動産千代田ファーストビル南館14階
三美印刷株式会社	〒116-0013	東京都荒川区西日暮里5-9-8
三立工芸株式会社	〒101-0061	東京都千代田区三崎町3-2-10 寺西ビル3F
三和印刷株式会社	〒381-2226	長野県長野市川中島町今井薬師堂1822-1
信濃印刷株式会社	〒102-0072	東京都千代田区飯田橋4-1-11
新日本印刷株式会社	〒162-0801	東京都新宿区山吹町342
大同印刷株式会社	〒849-0902	佐賀県佐賀市久保泉町上和泉1848-20
ダイニック株式会社	〒105-0004	東京都港区新橋6-17-19 御成門ビル
株式会社太平印刷社	〒140-0002	東京都品川区東品川1-6-16
株式会社太洋社	〒501-0431	岐阜県本巣郡北方町北方148-1
株式会社竹尾	〒101-0054	東京都千代田区神田錦町3-12-6
宗教法人天然寺	〒204-0021	東京都清瀬市元町1-4-5-711
株式会社東京然報社	〒101-0051	東京都千代田区神田神保町1-34
株式会社とうこう・あい	〒104-0061	東京都中央区銀座8-11-11
東光整版印刷株式会社	〒135-0006	東京都江東区常盤2-12-15
株式会社トーヨー企画	〒602-0923	京都府京都市上京区油小路通中立売上ル 油橋詰町93-7
株式会社日本経済新聞社	〒100-8066	東京都千代田区大手町1-3-7
萩原印刷株式会社	〒112-0004	東京都文京区後楽2-21-12
株式会社博報堂	〒107-6322	東京都港区赤坂5-3-1 赤坂Bizタワー 19F
株式会社平文社	〒170-0005	東京都豊島区南大塚2-35-7
株式会社堀内印刷所	〒335-0034	埼玉県戸田市笹目3-11-5
株式会社毎日新聞社	〒100-8051	東京都千代田区一ツ橋1-1-1
誠製本株式会社	〒174-0042	東京都板橋区東坂下1-19-5
株式会社遊文舎	〒532-0012	大阪府大阪市淀川区木川東4-17-31
株式会社読売新聞東京本社	〒104-8243	東京都中央区銀座6-17-1
株式会社ライトコミュニケーション	〒101-0042	東京都千代田区神田東松下町28-5 吉元ビル4F
渡辺印刷株式会社	〒152-0031	東京都目黒区中根2-7-1

一般社団法人大学出版部協会は、私たちの活動をご理解・ご支援下さる皆様による「賛助会員」制度を設けています。ここに趣旨にご賛同下さり、ご支援頂いている各社様をご紹介させていただきます。なお「賛助会員」に関するお問い合わせは協会事務局までお寄せ下さい。

●広告掲載出版社一覧（掲載順）

岩波書店	〒101-8002	東京都千代田区一ツ橋2-5-5
吉川弘文館	〒113-0033	東京都文京区本郷7-2-8
みすず書房	〒113-0033	東京都文京区本郷5-32-21
御茶の水書房	〒113-0033	東京都文京区本郷5-30-20
藤原書店	〒162-0041	東京都新宿区早稲田鶴巻町523
日本評論社	〒170-8474	東京都豊島区南大塚3-12-4
早稲田大学出版部	〒169-0051	東京都新宿区西早稲田1-1-7
筑波大学出版会	〒305-8577	茨城県つくば市天王台1-1-1
東京学芸大学出版会	〒184-8501	東京都小金井市貫井北町4-1-1
立教大学出版会	〒171-8501	東京都豊島区西池袋3-34-1

— 筑波大学の知の発信 —
筑波大学出版会

<http://www.press.tsukuba.ac.jp/>

新刊

**サービスサイエンス
 こととはじめ**

数値モデルとデータ分析による
 イノベーション

高木 英明 編著

サービスシステムにおける顧客と従業員の満足度評価や
 最適設計の基礎となる数値モデルとデータ分析の方法を
 豊富な応用例とともに独習できる

A5判・約360頁・本体3,000円+税 ISBN978-4-90407-430-5 C3063

お求めは全国の書店、
 または丸善出版株式会社へ。
 TEL.03-3512-3256 FAX.03-3512-3270
<http://pub.maruzen.co.jp/>

既刊 34点 「研究の WASEDA」
早稲田大学学術叢書

**アジア冷戦に挑んだ
 平和運動** タイ共産党の統一戦線活動
 と大衆参加

高橋勝幸 著 朝鮮戦争期にタイで発展した平和運動の経緯と実態を現地資料とインタビューをもとに考察する。7900円(税抜)

人道的介入
 秩序と正義、武力と外交

小松志明 著 繰り返されてきた危機と国連や諸国による介入の歴史に学ぶ。4900円(税抜)

後漢政治制度の研究

渡邊得智 著 後漢政治制度の考察を通じ、前近代中国の皇帝支配体制の実態を明らかにする。8400円(税抜)

制度変革の政治経済過程

戦前期日本における営業税廃税運動の研究
 石井裕晶 著 明治・大正期、営業税廃税が実現するまでの政治過程と背景にある政治経済構造を考証する。8500円(税抜)

早稲田大学出版部

〒169-0051 東京都新宿区西早稲田 1-1-7
 ☎03-3203-1551 <http://www.waseda-up.co.jp/>

立教大学出版会

<http://www.rikkyo.ac.jp/u-press/>

「戦時」から「成長」へ

一九五〇年代におけるフランコ体制の政治的変容
 武藤 祥 著 膨大な一次・二次史料に基づき「戦時体制」から成長指向独裁体制への変容を説明。A5判上製 三二七頁 三八〇〇円

**台湾のエスニシティと
 メディア** 統合の受容と拒絶のポリティクス
 林 怡煖 著 エスニック・メディアの成立過程をとり、エスニシティとテクノロジーの相克を究明。A5判上製 三三七頁 三八〇〇円

ホテルアセットマネジメント
 グレグ・デントン、ロリ・E・ローリー、A.J.シン 編 原理と実践
 丸山 裕・庄司貴行 監訳 ホテルアセットマネジャーの専門的職業知識・技能の向上のための最新・必須の知見を掲載。

A5判上製 五五三頁 六八〇〇円

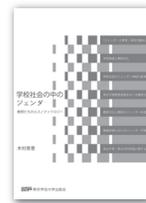
(表示価格は税別です)
 〒171-8501東京都豊島区西池袋3-34-1
 発売*有斐閣
 TEL03(3265)6811 FAX03(3262)8035

東京学芸大学出版会

学校社会の中のジェンダー

— 教師たちのエスノメソドロジー —

木村育恵



学校教育や教師集団などの学校社会の中になぜ「ジェンダー」に敏感な視点が根づきにくいのかを教師のふるまいや行動、思考のパターンの複合体としての「教師文化」に着目し、構造的に分析。

A5判 240頁 2300円+税

国語の授業の基礎・基本

— 小学校国語科内容論 —

国語科コアカリキュラム研究プロジェクト 編

小学校でちゃんとした国語の授業をするためにはどうしたらいいかわからない。そんな国語の苦手な人が何を教えればいいのか、そのために自分は何を知り、何を考えなければならないか。国語の本質をわかりやすく解説します。

B5判 232頁 1600円+税

GIP

[TEL] 042-329-7797 [FAX] 042-329-7798
 [HP] <http://www.u-gakugei.ac.jp/upress>

一般社団法人
大学出版部協会
加盟出版部一覧

北海道大学出版会
〒060-0809 札幌市北区北9条西8丁目
北海道大学構内
TEL: 011-747-2308 FAX: 011-736-8605

弘前大学出版会
〒036-8560 弘前市文京町1
弘前大学附属図書館内
TEL: 0172-39-3168 FAX: 0172-39-3171

東北大学出版会
〒980-8577 仙台市青葉区片平2-1-1
東北大学構内
TEL: 022-214-2777 FAX: 022-214-2778

流通経済大学出版会
〒301-8555 龍ヶ崎市平畑120
TEL: 0297-60-1167 FAX: 0297-60-1165

聖学院大学出版会
〒362-8585 上尾市戸崎1-1
TEL: 048-725-9801 FAX: 048-725-0324

聖徳大学出版会
〒271-8555 松戸市岩瀬550
TEL: 047-365-1111 FAX: 047-363-1401

麗澤大学出版会
〒277-8686 柏市光ヶ丘2-1-1
TEL: 04-7173-3320 FAX: 04-7173-3154

慶應義塾大学出版会
〒108-8346 港区三田2-19-30
TEL: 03-3451-3168 FAX: 03-3451-3124

産業能率大学出版部
〒100-0005 千代田区丸の内1-7-12
サブエタワー9階
TEL: 03-6266-2400 FAX: 03-3211-1400

専修大学出版局
〒101-0051 千代田区神田神保町3-8
TEL: 03-3263-4230 FAX: 03-3263-4288

大正大学出版会
〒170-8470 豊島区西巢鴨3-20-1
TEL: 03-3918-7311 FAX: 03-5394-3038

玉川大学出版部
〒194-8610 町田市玉川学園6-1-1
TEL: 042-739-8935 FAX: 042-739-8940

中央大学出版部
〒192-0393 八王子市東中野742-1
TEL: 042-674-2351 FAX: 042-674-2354

東京大学出版会
〒153-0041 目黒区駒場4-5-29
TEL: 03-6407-1069 FAX: 03-6407-1991

東京電機大学出版局
〒101-0047 千代田区内神田1-14-8
TEL: 03-5280-3433 FAX: 03-5280-3563

東京農業大学出版会
〒156-8502 世田谷区桜丘1-1-1
TEL: 03-5477-2666 FAX: 03-5477-2747

法政大学出版局
〒102-0073 千代田区九段北3-2-3
法政大学九段校舎1F
TEL: 03-5214-5540 FAX: 03-5214-5542

武蔵野大学出版会
〒202-8585 西東京市新町1-1-20
武蔵野大学構内
TEL: 042-468-3003 FAX: 042-468-3004

武蔵野美術大学出版局
〒180-8566 武蔵野市吉祥寺東町3-3-7
TEL: 0422-23-0810 FAX: 0422-22-8309

明星大学出版部
〒191-8506 日野市程久保2-1-1
TEL: 042-591-9979 FAX: 042-593-0192

関東学院大学出版会
〒236-8501 横浜市金沢区 六浦東1-50-1
TEL: 045-786-5906 FAX: 045-786-2932

東海大学出版部
〒257-0003 秦野市南矢名3-10-35
東海大学同窓会館3階
TEL: 0463-79-3921 FAX: 0463-69-5087

名古屋大学出版会
〒464-0814 名古屋市中千種区不老町1
名古屋大学構内
TEL: 052-781-5027 FAX: 052-781-0697

三重大学出版会
〒514-8507 津市江戸橋2-174
三重大学附属病院5階
TEL: 059-232-1356 FAX: 059-232-1356

京都大学学術出版会
〒606-8315 京都市左京区吉田近衛町69
京都大学吉田南構内
TEL: 075-761-6182 FAX: 075-761-6190

大阪経済法科大学出版部
〒581-8511 八尾市楽音寺6-10
TEL: 072-941-9129 FAX: 072-941-9979

大阪大学出版会
〒565-0871 吹田市山田丘2-7
大阪大学ウエストフロント
TEL: 06-6877-1614 FAX: 06-6877-1617

関西大学出版部
〒564-8680 吹田市山手町3-3-35
TEL: 06-6368-0238 FAX: 06-6389-5162

関西学院大学出版会
〒662-0891 西宮市上ヶ原一番町1-155
TEL: 0798-53-7002 FAX: 0798-53-9592

広島大学出版会
〒739-8512 東広島市鏡山1-2-2
TEL: 082-424-6226 FAX: 082-424-6211

九州大学出版会
〒812-0053 福岡市東区箱崎7-1-146
九州大学構内
TEL: 092-641-0515 FAX: 092-641-0172

NESE
UNIVERSITY
SSES

99
4・7
MER

大学出版99号（2014年夏）
2014年7月1日発行
頒価100円（〒共）

発行所：
一般社団法人大学出版部協会
ISSN 0913-3305
振替00170-8-389131

〒102-0073
東京都千代田区九段北
1丁目14番13号
メゾン萬六403号室

TEL: 03-3511-2091
E-MAIL: mail@ajup-net.com
URL: http://www.ajup-net.com/

使用書体：
ZENオールド明朝，R
Jannon Antiqua，Regular
使用紙：
紀州の色上質 特厚口 クリーム

表紙デザイン：
白井敬尚形成事務所